



城里町「道の駅かつら」移転基本構想

令和3年6月

城里町

目 次

1. はじめに	1
2. 道の駅概要	2
3. 現在の道の駅かつら	4
4. 整備コンセプト	11
5. 道の駅導入機能・施設の検討	12
6. 道の駅施設規模の算定	21
7. 道の駅立地計画の検討	34
8. 道の駅の整備・管理運営手法の検討	39
9. 資料	40



1. はじめに

「道の駅かつら」は、平成4年4月1日に特産品直売センターかつらとして営業開始し、平成5年4月22日に茨城県内第1号の道の駅として認定されました。

地域で生産された新鮮な農産物や加工品・工芸品などの産地直売をはじめ、常陸秋そばなどを使った郷土料理を提供しています。

位置は国道123号に隣接し、水戸市中心部から20キロメートルの距離にあり、御前山県立自然公園を背景とした清流那珂川を望む景勝地に立地しています。御前山の緑に那珂川大橋の赤が映える景色は、京都の嵐山に似ていることから「関東の嵐山」と呼ばれ親しまれています。景観だけでなく一帯にはめずらしい動植物も多く、自然観察をしながらハイキングが楽しめます。清流那珂川は、アユ釣りの名所として知られるだけでなく、古くからサケの遡上する川としても有名です。また、関東でも貴重なカヌーポイントとなっています。「道の駅かつら」に隣接するふれあい広場では、バーベキューなどアウトドアライフを楽しむ人々で賑わっています。道の駅かつらは、地域農業の活性化を図る農産物直売所を核とし、川あり山ありと気軽にアウトドアを楽しめる城里町を代表する観光拠点となっています。

このような中、一級河川那珂川にかかる那珂川大橋の架替事業が動きはじめ、その新ルートに「道の駅かつら」がかかり移転が必要となりました。

「道の駅かつら」の移転を、新しく魅力的に生まれ変わる好機と捉え、城里町特産品直売センターかつら（道の駅）移転整備検討委員会を組織し、移転整備の検討を進めるものです。

2. 道の駅の概要

(1). 道の駅とは

「道の駅」は道路利用者のための「休憩機能」、道路利用者や地域の方々のための「情報発信機能」、そして道の駅をきっかけに町と町とが手を結び活力ある地域づくりを共に行うための「地域の連携機能」、の3つの機能を併せ持つ、「道路利用者への安全で快適な道路交通環境の提供」と「地域の振興や安全の確保に寄与」を目的とした、国土交通省に登録された休憩施設です。

令和2年7月現在の全国登録数は1, 180ヶ所であり、道の駅かつらはその1つとなっています。

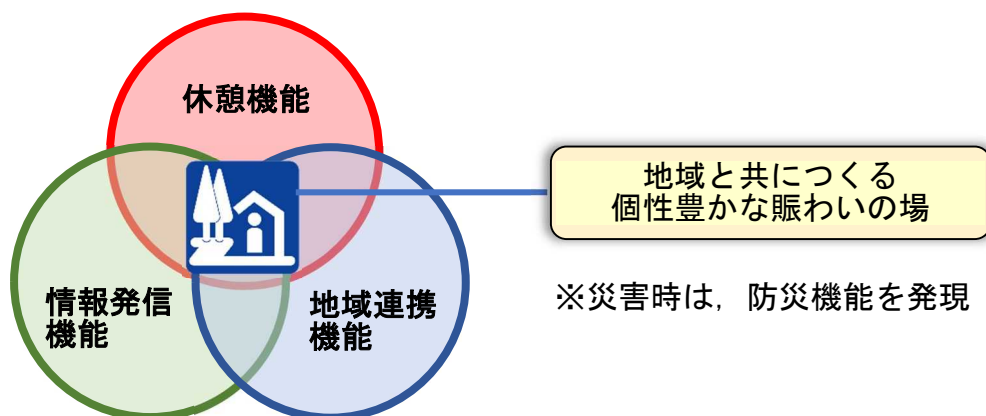
これらの休憩施設が個性豊かな賑わいのある空間となることにより、地域の核が形成され、活力ある地域づくりや道を介した地域連携が促進されるなどの効果も期待されます。

【道の駅機能】

休憩機能 ●24時間、無料で利用できる駐車場・トイレ

情報発信機能 ●道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報などを提供

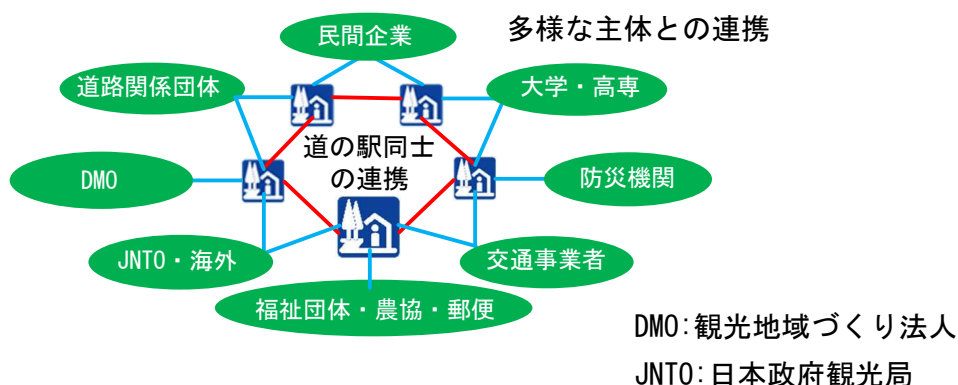
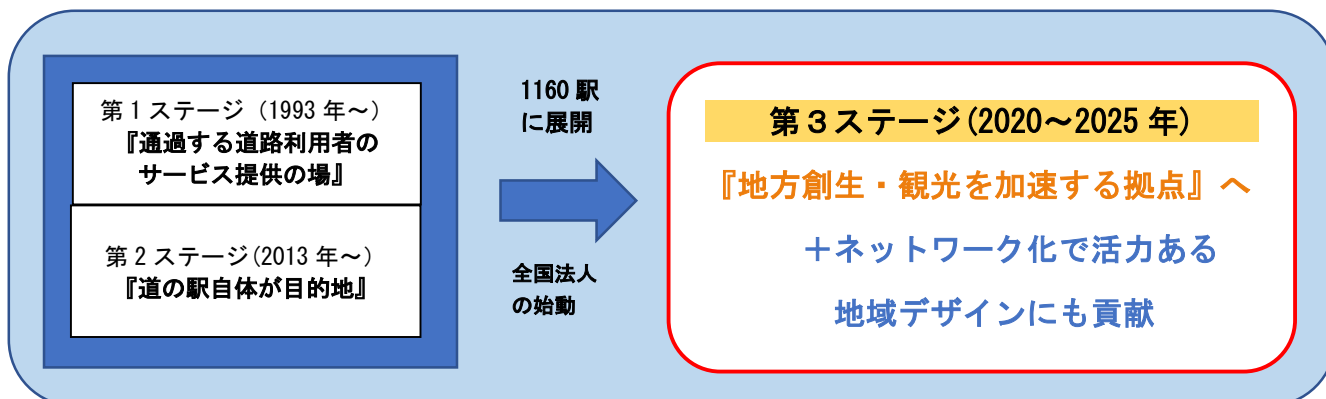
地域の連携機能 ●農産物販売施設、地場産品を活用した地域振興施設



「道の駅」コンセプト（国土交通省 HP より引用）

(2). 道の駅第3ステージ概要

「道の駅」は、制度発足から『通過する道路利用者のサービス提供の場』として、全国各地に広がり、現在では『道の駅自体が目的地』になるよう、土産物店や食堂だけでなく、さまざまな観光施設が併設されるようになりました。2020年からさらに機能を高めて地方創生の拠点を目指し、新たなコンセプトである『地方創生・観光を加速する拠点』及び『ネットワーク化で活力ある地域デザインにも貢献』を実現に向けて進めています。



「2025年」を目指す3つの姿は、下記のとおりです。

1. 「道の駅」を世界ブランドへ	2. 新「防災道の駅」が全国の安心拠点に	3. あらゆる世代が活躍する舞台となる地域センターに
<p><主な取組み></p> <ul style="list-style-type: none"> 海外プロモーションの強化 外国人観光案内所の認定取得やキャッシュレスの導入 風景街道等と連携した観光周遊ルートの設定 観光MaaS（アプリで交通と観光施設を案内） 	<p><主な取組み></p> <ul style="list-style-type: none"> 広域的な防災拠点となる「防災道の駅」認定制度の導入と重点支援 地域防災力の強化のためのBCP策定や防災訓練等の実施 	<p><主な取組み></p> <ul style="list-style-type: none"> 子育て応援施設の併設 自動運転サービスのターミナル 大学等との連携によるインターンシップや実習（商品開発等）

3. 現在の道の駅かつら

(1). 道の駅かつら経過内容

道の駅「かつら」は、地域の特性を生かした特産品や加工品の開発を進めると共に、付加価値の高い農業の展開をめざし、観光農業の拠点として地域農業の活性化を図る目的で建設を進めました。

平成2年度に県単事業による県北西部観光農業促進対策事業実施計画の承認を受け、事業着手(2か年継続)すると共に、平成3年度には県北西部ふるさと農業活性化事業の承認を受け、施設の充実を図りました。

本施設は、当地方の新鮮な農作物や加工品の直売施設をはじめ、郷土料理の提供、手づくりを楽しめる体験室など、観光農業の拠点施設として、更には都市住民との交流の場としての活用も期待されております。

施設業務の運営管理にあたっては第三セクターによる「株式会社 桂ふるさと振興センター」が平成4年4月1日に設立発足し、町の指定管理者として委託しております。

【建設経過】

平成3年	1月28日	県北西部観光農業促進対策事業実施計画の承認
	2月17日	県北西部観光農業拠点施設整備事業 敷地等造成工事着工 事業費 18,952,000円
	3月23日	特産物直売センター新築工事着工(観光農業拠点事業) 事業費 92,700,000円
	9月9日	県北西部ふるさと農業活性化事業実施計画の承認
11月	2日	内部施設工事着工(町単独事業) 事業費 10,506,000円
11月	8日	トイレ棟新築工事着工(ふるさと農業活性化事業) 事業費 33,063,000円 道の駅導入施設案
	12月9日	外構工事着工(ふるさと農業活性化事業) 事業費 11,227,000円
	12月9日	舗装工事着工(町単独事業) 事業費 22,557,000円
平成4年	3月14日	電気設備追加工事着工(観光農業拠点事業) 事業費 1,138,000円
	3月14日	外構追加工事着工(ふるさと農業活性化事業) 事業費 1,547,000円
	3月30日	全工事完成
	4月1日	株式会社 桂ふるさと振興センター設立及び営業開始
平成5年	4月22日	「道の駅」に認定(県内第1号)

(2). 施設の概要

①名称	特産品直売センター「かつら」	
②所在地	城里町御前山37番地	
③敷地面積	8,295.35㎡	
④建設年度	平成2～3年度	
⑤施設	直売所棟（直売・食堂・観光情報）	426.97㎡
	トイレ	68.31㎡
	体験室（事務室）	80.04㎡
⑥事業費	県北西部観光農業促進対策事業（平成3年2月）	
	（直売施設・体験室・造成）	112,790千円
	県北西部ふるさと農業活性化事業（平成3年4月）	
	（トイレ・外構）	45,837千円
	町単独事業（平成3年12月）	
	（舗装・内部施設）	33,463千円
	設計監理費	11,330千円
	備品一式	10,175千円
	計（県補助1／2）	213,595千円
	町単独事業（平成30年12月）	
	（外部トイレ建設）	47,942千円
	設計監理費	810千円
	計	48,752千円

(3). 現在の道の駅かつらの特徴

●地場産業の活性化・振興の拠点

「レッドポアロー（赤ネギ）」を代表とした地元の新鮮野菜、奥久慈茶・猿島茶と並んで茨城三大銘茶に数えられている「古内茶」の他、地場産食材の販売、国産大豆を使った「かつどら」や「桂じぇらあと」、古内茶を使った「こちゃレーヌ」等のオリジナルスイーツを提供している。また、食堂では、全国のそば職人から最高峰の評価を得ているブランド品種「常陸秋蕎麦」等、地産地消にこだわった「食」の提供や特産品販売を行っています。



レッドポアロー



古内茶



かつどら



桂じえらあと

●直近の販売実績・客数

(単位：千円)

年 度	農産物 等直売	加工品・土産品 コーナー	食堂 コーナー	合計	客数 (人)
平成31年度	117,787	192,393	50,677	360,747	275,237
平成30年度	129,833	194,444	49,640	373,917	285,660
平成29年度	133,711	211,577	45,147	390,435	293,031
平成28年度	163,755	205,806	35,366	404,927	283,568
平成27年度	128,017	202,746	35,902	366,665	279,081

※売上は税込み

●かわまちづくりの拠点

道の駅かつらは、「関東の嵐山」と呼ばれる山紫水明の御前山と、関東随一の清流那珂川を望む、素晴らしい景勝の地に立地しています。

水辺を活かして地域の賑わい創出を目指す取組として、那珂川・御前山と道の駅かつらを一体的に利用できる親水空間を整備し、水生生物調査や鮭の放流等、那珂川が育む生命の豊かさを体験したり、四季折々の自然を楽しめる御前山ハイキングなどのイベントが行われてきました。



水生生物調査



鮭の放流



ハイキング

●広域観光の拠点

御前山及び那珂川の広域利用促進を目的とし、城里町と常陸大宮市が連携し、地域間の交流拡大と広域観光の推進に関する事業を行うことにより、交流人口の拡大、地域の活性化と産業の推進に寄与することを目的として平成28年度に「御前山・那珂川広域連携協議会」を設置している。

この協議会では、道の駅かつらを拠点に、御前山や那珂川といった城里町の貴重な観光資源を最大限活用し、発展的な形とすべく、隣接した常陸大宮市と地域の「稼ぐ力」を引き出し、「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と共同し確実な計画実行を実現する力のあるDMOの設立を目指し各種事業を展開している。

「御前山・那珂川広域連携協議会」の事業

- ・ 御前山・那珂川カヌーフェスティバル（3回実施）
- ・ 御前山トレイルラン大会（3回実施）
- ・ 御前山サイクリングフェスティバル（1回実施）
- ・ 地域案内人育成事業・観光ツアー、情報発信PR事業等

※回数は令和元年度までの回数

●サイクルツーリズムによるサイクリストの拠点

平成31年2月に県が策定した「いばらきサイクルツーリズム構想」において、モデルルートの一つに設定された「奥久慈里山ヒルクライムルート」は、まさに道の駅かつらに面する国道123号を通る、山々を巡る上級者向けのチャレンジルートになっている。

奥久慈里山ヒルクライムルートの沿線6市町及び民間事業者等が連携し、サイクルツーリズムの推進を通じて、地域の情報発信や誘客促進等を一体的に取り組むことにより、交流人口の拡大等による地域活性化を図ることを目的に、令和2年1月に「奥久慈里山ヒルクライムルート活用推進協議会」が設置されている。

道の駅かつらは、この協議会の会員であり、サイクルツーリズムを推進する取り組みとして、現在、自転車ラックの設置やサイクリストの休憩所を開設し、空気入れや工具等の貸し出しも行うサイクルサポートステーションとなっている。

※沿線6市町

(水戸市、常陸太田市、常陸大宮市、那珂市、城里町、大子町)



自転車ラック・休憩所

(4). 現在の道の駅かつらの課題**●駐車場の台数**

建物前に駐車場がありますが、国道から入ると動線的に回り込むような敷地内の道路があり、分かりづらいことと、台数が建物前は40台と非常に少ないことが挙げられます。またそれを補うような形でふれあい広場脇の河川区域に駐車場がありますが、むしろ駐車台数はこちらの方が多く、現在の道の駅かつらを利用するには歩行動線が長くなり使いにくい状況となっています。

●敷地の出入口

道の駅の導入部となる国道からの進入は、初めて利用される方には分かりにくいと感じます。また敷地内通路も閉鎖的で狭い印象があります。

●休憩施設としての機能

既存の施設内には休憩スペースが無く、屋外にベンチが設置されているのみとなっており、雨天時や昨今の道の駅状況を考えますと休憩施設は脆弱であると考えます。

●情報発信拠点としての機能

道の駅の機能として必要であるべき情報発信部門が極端に低いと考えます。道路情報や周辺の観光・イベント情報等を発信のためのスペースは充分でないと考えます。

●飲食の提供

現在、道の駅で提供している常陸秋蕎麦を使った手打ちそばは非常に美味で、お客様の評価も高い為、継続されていくべきと考えますが、一方で様々な利用者への食のニーズに対応はしていません。

●浸水被害への対策

令和元年東日本台風（台風19号）による那珂川の増水で、営業休止になるほどの浸水被害を受けました。

現在の土地の高さでは今後も被害を受ける可能性があることから、高台や、被害を受けない高さまで盛土をした土地に建設する必要があると考えます。

●ふれあい広場の課題

道の駅かつらに隣接しているふれあい広場は、特に規制がないこともあり、自由にキャンプやバーベキュー等が出来ることから、1年を通して利用する人が多くなっており、それに対応した洗い場やゴミ捨て場がないこともあり、トイレで洗い物をする人やゴミを不当に捨てていくなど迷惑行為が発生しています。



キャンプ



利用者によるゴミ放置

(5). 道の駅かつら利用者アンケート調査

期間：令和2年11月1日～11月30日

場所：道の駅かつら

方法：紙媒体によるアンケート調査

40ページ 調査結果参照

(6). 城里町特産品直売センターかつら(道の駅)移転整備検討委員会での意見

51ページ参照

- ・検討委員会から出た「道の駅店長の意見をよく聞いて欲しい」という意見を受けて

55ページ参照

- ・検討委員から出た「女性の意見を聞いているのか」という意見を受けて城里町役場女性職員の意見

56ページ参照

(7). 現在の「道の駅かつら」の施設概要

現在国土交通省及び、全国道の駅連絡会に登録されている、施設概要は次のとおりとなっています。

「豊かな自然と故郷の特産品に出会える道の駅」

(国交省：道の駅概要より)

「豊かな自然にはぐくまれた ふるさとの特産品に出会える」

(全国道の駅連絡会：駅の概要より)

以上を踏まえた上で、整備コンセプトを設定します。

4. 整備コンセプト

現在の道の駅の特徴と課題を踏まえ、道の駅の整備目的と、それを実現するための整備コンセプトと基本方針を以下のように設定します。

【整備目的】

- 城里町をPRする拠点
- 地域と観光の賑わいの場となる拠点



【整備コンセプト】

山河の魅力を「味わう」ことができる拠点づくり

【道の駅整備のための基本方針】

- 豊かな自然や景色を味わうことができる拠点づくり
- 特産品の良さを味わうことができる拠点づくり
- 人とつながる喜びを味わうことができる拠点づくり
- 既存施設の雰囲気を踏襲した拠点づくり

現在の道の駅かつらの魅力である、豊かな自然に触れ合い景色を堪能し、特産品を活かしてきたことの他に、情報を発信する手段を増やし、人との交流する場を設けることで、更に際立たせる拠点づくりを目指します。

● 豊かな自然や景色を味わうことができる拠点づくり
関東の嵐山と謳われる那珂川、御前山の風景やそこに広がる自然を活かし、四季を通じて城里町の魅力を体感することができる拠点づくりを目指します。
● 特産品の良さを味わうことができる拠点づくり
城里町の特産品販売や飲食等を通じて、町の魅力の発信と地域の活性化の促進に貢献する拠点づくりを指します。
● 人とつながる喜びを味わうことができる拠点づくり
道路通行途中の休憩や、観光、レジャー利用の方々の他、地域の施設としての道の駅づくりで、安心安全で安らぎや癒しの魅力を伝え、人々の交流を促進できる拠点づくりを目指します
● 既存施設の雰囲気を踏襲した拠点づくり
昨今の道の駅として必要な機能の整備を検討する一方で、地域に合った施設規模を検討して、建設・維持管理のコストを抑えられるよう十分に配慮し、現存する道の駅かつらの温かい雰囲気を踏襲した魅力ある拠点づくりを目指します。

5. 道の駅導入機能・施設の検討

道の駅の整備目的や整備コンセプトを踏まえ、その実現の為、以下のような機能の導入を検討します。

(1). 休憩施設

1) 駐車場

- ①国道 123号の交通量や施設利用に応じた十分な駐車台数を確保した駐車場を整備します。
- ②駐車しやすいゆとりをもった駐車スペースを確保します。
- ③駐車スペースには極力段差をなくし、人が歩きやすく、運転しやすい駐車場を整備します。
- ④小型車と大型車は、可能な限り分離した駐車スペースとなるよう整備します。
- ⑤自転車やバイク等の駐車スペースを確保します。



段差解消



歩行者通路



自動二輪駐輪スペース

- ⑥施設の近い位置に屋根付きの身障者用の駐車スペースを確保します。
- ⑦身障者用の駐車スペースは、妊婦、高齢者、けが人が利用できるように表示します。



身障者用駐車スペース



優先マーク

⑧今後の電気自動車の普及を見据え、充電スポットの設置を検討します。



電気自動車充電スポット

2) 休憩スペース

①ベンチやテーブルを設置し、道の駅に訪れた方が気軽に利用し、休憩できるスペースを確保します。



①屋外休憩スペース



①屋内休憩スペース

3) トイレ

①24時間利用できて、清潔で明るく使いやすい、誰もが安心して利用できるトイレを整備します。

②国道 123号の交通量や施設の利用に応じた便器数を確保します。

- ③その他、車いす使用者、高齢者、妊婦、乳幼児を連れた方等、みんなが利用できる多目的トイレを整備します。



清潔で明るいトイレ



多目的トイレ

4) サイクルステーション

- ①サイクリストが気軽に立ち寄って休憩できるよう、駐輪スペース、スポーツサイクル対応空気入れの貸し出し等を行うサイクルステーションを整備します。
- ②電動アシストスポーツバイク「E-BIKE」の需要が増えている為、充電スポットとしての整備を検討します。



サイクルステーション



サイクルスタンド

(2). 情報発信機能

1) 観光情報等、地域の情報

- ①道の駅に訪れた人々に道路情報や周辺の観光・イベント情報を提供するための施設の整備をします。
- ②総合観光案内所を設置して、地域の情報を積極的に発信する施設を整備します。



情報発信施設



御前山ハイキング情報

2) 災害時の情報

- ①道の駅SPOTを利用する等、災害発生時、災害発生状況等の情報を提供するための方法について検討します。



道の駅SPOT

※道の駅SPOT：別名、道の駅Wi-Fi。
現在いる道の駅において道路情報、
気象情報、災害情報、防災情報の
他、道の駅周辺の地域・観光情報
などを閲覧することができる。

(3). 子育て応援施設

- ①乳幼児をもつ子育て家族が安心して道の駅を利用できるよう、授乳スペースやおむつ交換スペースを整備します。



おむつ交換スペース

(4). 地域連携機能

1) 農林水産物販売施設

- ①引き続き、町や近隣地域で生産される農産物や加工される物産品等を販売し、町の魅力を発信できる場を整備します。



農産物販売



特産品売場

2) 飲食施設

- ①町や近隣地域で生産される新鮮な農産物や那珂川でとれる水産物を提供する飲食の場を整備します
- ②食のニーズに対応するために蕎麦・うどん以外の料理を提供する場を整備します。



蕎麦屋(常陸秋そば)



フードコート(洋食)



ピザ・パン工房



農水産物加工売場

3) 多目的広場

- ①景観を眺め、利用者が心安らげる場を整備します。
- ②イベントが出来る広場など賑わいのある多目的広場の整備を検討します。
- ③ペット同伴のドライバーが増加していることに配慮し、ドッグランの整備を検討します。



多目的広場



ドックラン

(5). 防災機能

1) 防災施設

- ①地震等の災害において、地域住民の一時避難場所となるよう整備方法を検討します。
- ②被災時の地域住民や帰宅困難者の支援が出来るよう、防災倉庫を設置し物資の備蓄を検討します。
- ③災害時に停電が起きた場合に、電気等を使用できるようにするため、移動可能な発電機の設置を検討します。
- ④水害において、浸水被害を受けない場所や、被害を受けない高さまで盛土した土地に建設することを検討します。



防災倉庫

2) ドクターヘリポート

- ①現在桂運動公園と御前山県立自然公園駐車場がドクターヘリのランデブーポイントとなっています。どちらも河川区域内となっている為、新たな敷地にドクターヘリポートの設置が可能か検討します。



ドクターヘリポート

(6). その他

1) バス停

- ①道の駅かつらを拠点とした周辺地域の周遊を促進するため、路線バスのバス停設置を検討します。

2) ユニバーサルデザインに基づく計画

- ①トイレや駐車場など、全ての人々に利用しやすい施設を整備します。
- ②車イス利用者の移動が容易になるように、施設内のテーブルやイス等はゆとりをもって設置します。
- ③情報発信機能や施設内の案内は、漢字や平仮名、英語など様々な形式で表記するとともに、ピクトグラム記号も併用し、誰もが理解しやすくします。



トイレ案内表示



多言語案内板

- ④急病人、けが人の発生に備え、AED の設置、一般用医薬品の販売、緊急医療情報の提供などを行います。



AED

3) キャンプなどのレジャー拠点

- ①ふれあい広場の現状は、無料のキャンプ場として認知されてしまい、昨今のキャンプブームによるオーバーツーリズムやゴミの投棄、トイレでの洗い物など、常識を超えた使われ方が問題となっているため、ふれあい広場やその周辺について、オートキャンプ場等の整備を検討します。
- ②有料化を視野に入れ、管理棟等の施設の整備を検討します。



オートキャンプ場



管理棟



かまど



洗い場

4) 道の駅かつらの持ち味の継承

- ①機能導入するにあたっては、長年地域住民やお客様に愛され続けてきた「道の駅かつら」の持ち味や温かい雰囲気は残していくものとします。

5) 建設・維持管理コストの抑制

- ①道の駅に必要な機能は整備する一方で、建設・維持管理のコストが抑えられるように配慮します。

6. 道の駅施設規模の算定

① 駐車場

交通量については、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて交通量が減少している状態では、適正なデータは得られないと判断し、交通量調査は延期し、平成22・27年に国土交通省が実施した交通量調査をもとに算定しました。

算定の結果、駐車ます数は

「小型車116台」、 「大型車7台」、 「身障者用3台」

と設定します。既存と算定結果の比較は以下のとおりです。

(台)

	小型車	大型車	身障者用	合計
既存駐車ます	108	6	2	116
計画駐車ます	116	7	3	126

1) 平成22・27年度全国道路・街路交通情勢調査 一般交通量調査による交通量(昼間12時間)

(台)

	小型車	大型車	合計
平成27年度	4,248	392	4,640
平成22年度	5,133	411	5,544

交通量は平成27年度を採用し「小型車4,250台」、 「大型車400台」と設定しました。

2) 駐車ます算定方法

「設計要領第六集 建築施設編（平成29年7月 東日本高速道路株式会社）」と「道の駅の駐車場に関する調査結果」（令和元年5月10日第4回 新「道の駅」のあり方検討会 配付資料 国土交通省）を用いて算定しました。

駐車ます数＝計画交通量×立寄率×ラッシュ率÷回転率

計画交通量＝交通量×休日サービス係数

回転率＝60分÷平均駐車時間

【算定に用いた諸数値】

施設の種類	車種	立寄率	ラッシュ率	平均 駐車時間	回転率
直売充実型	小型車	0.25	0.14	33	1.8
	大型車	0.18	0.18	23	2.6

出典：「道の駅の駐車場に関する調査結果」（R1.5 国土交通省）

休日サービス 係数	年平均交通量 Q (両方向：台/日)	サービス係数
	$0 < Q \leq 25,000$	1.4
	$25,000 < Q \leq 50,000$	$1.65 - Q \times 10^{-5}$
	$50,000 < Q$	1.15

出典：「設計要領第六集 建築施設編」（H29.7 東日本高速道路株式会社）

※R1.7から記載がないため、H29.7を参照

3) 駐車まず算定

小型車： $4,250 \times 1.4 \times 0.25 \times 0.14 \div 1.8 = 115.7$ ∴116台

大型車： $400 \times 1.4 \times 0.18 \times 0.18 \div 2.6 = 6.9$ ∴7台

4) 身障者用駐車スペース算定

また小型車・大型車の駐車まずに加えて、別途身障者用の駐車スペースを「設計要領第六集 建築施設編」（令和元年7月 東日本高速道路株式会社）を用いて算定した。

【身障者用小型駐車まず数】

駐車まずの区分	身障者用小型駐車まず数
全小型駐車まず数 ≤ 200	全小型駐車まず数 $\times 1/50$ 以上
全小型駐車まず数 > 200	全小型駐車まず数 $\times 1/100 + 2$ 以上

出典：「設計要領第六集 建築施設編」（R1.7 東日本高速道路株式会社）

5) 身障者用小型駐車まず算定

$116 \times 1/50 = 2.3$ ∴3台

6) 自動二輪駐車まず及び自転車駐輪まず算定

自動二輪車の駐車まず及び自転車駐輪まずは「自転車等駐車場の整備のあり方に関するガイドライン」（平成24年11月 国土交通省 都市局）の内容を参照して算定します。

算定の結果は自転車も含めた台数である為、自転車はサイクリストを

考慮し、「41台」とし、自動二輪は「10台」と設定します。既存と算定結果の比較は下記のとおりです。

(台)

	自転車	自動二輪車
既存	約40	0
計画	41	10

【算定に用いた諸数値】

施設の用途	施設の規模	駐車場の規模
百貨店・スーパー等小売店舗	店舗面積が400㎡超	20㎡/台

出典：「自転車等駐車場の整備のあり方に関するガイドライン」
(H24.11 国土交通省 都市局)

③情報発信施設・④農産物直売所・物販施設及び⑤飲食施設より、店舗面積「1,060㎡」で算定します。

$$1,020 \div 20 = 51 \text{台}$$

7) 駐車場規模

駐車場のスペースは、小型車・大型車は「道路設計要領(設計編)第3章 幾何構造」(平成14年3月 中部地方整備局)を参照した車路スペースを含めた1台あたりに必要な面積をもとに、身障者用・自動二輪車・自転車は出典資料を参考に計算で求めた数値をもとに、下記のとおり算出しました。また、駐車場スペース以外にも植栽帯、車両動線等が必要であることから、他の事例を参考にし、算出した駐車场面積の半分程度と想定しました。

算定の結果、駐車場の規模については「5,300㎡」と設定します。

車種	駐車まず数(台)	車路を含めた1台辺りに必要な面積(㎡/台)	面積(㎡)
小型車	116	20.0(駐車角=90°)	2,320.0
身障者用	3	31.5(駐車角=90°)	94.5
大型車	7	141.9(駐車角=90°)	993.3
自動二輪車	10	2.3	23.0
自転車	41	1.14	46.7
計			3,477.5
植栽帯、車両動線		3,477.5×50%	1,738.7
合計		3,477.5+1,738.7=5,216.2	約5,300.0

出典：「道路設計要領(設計編) 第3章 幾何構造」(H14.3 中部地方整備局)
 ※身障者用1台当たりの面積 幅3.5m×奥行9.0m=31.5㎡/台(通路3m含む)
 ※自動二輪車1台当たりの面積 幅1.0m×奥行2.3m=2.3㎡/台
 ※自転車1台当たりの面積 幅0.9m×奥行1.9m=1.14㎡/台

② トイレ

トイレの規模は「設計要領第六集 建築施設編」（令和元年7月 東日本高速道路株式会社）を用いた場合（計画A）と、既存の駐車場が増えた割合（約1.1倍）からトイレの規模を想定した場合（計画B）で算定しました。

算定結果、トイレの規模は、「100~200㎡」で設定します。

既存と算定結果の比較は下記のとおりです。

		面積 (㎡)	設備 (基) or (ヶ所)					
			小便器		大便器 (洋)		洗面	
既存	男子	25.0	小便器	6	大便器 (洋)	2	洗面	2
	女子	27.3			大便器 (洋)	5	洗面	2
	多目的	8.2	多目的	1	オストメイト	1		
	合計	60.5						
計画A	男子	60.6	小便器	5	大便器 (洋)	4	洗面	2
			大型 ブース	1	オストメイト	1		
	女子	135.0	パウダールーム	6	大便器 (洋)	17	洗面	4
			大型 ブース	1	オストメイト	1		
	多目的	10.8	多目的	1	オストメイト	1		
	合計	206.4						
計画B	男子	43.8	小便器	7	大便器 (洋)	3	洗面	3
	女子	44.4			大便器 (洋)	7	洗面	3
	多目的	10.8	多目的	1	オストメイト	1		
	合計	99.0						

※多目的：車椅子利用者の他、子供連れ、高齢者が利用できるトイレ

※大型ブース：おむつ交換台が設置されたブース

■計画A 「設計要領第六集 建築施設編」 (R1.7 東日本高速道路株式会社)
を用いた場合

1) トイレ利用者数算定方法

$$\begin{aligned} \text{トイレ利用者数} = & (\text{小型車駐車ます} \times \text{駐車回転率} \times \text{平均乗車人数} \\ & + \text{バス駐車ます} \times \text{駐車回転率} \times \text{平均乗車人数} \\ & + \text{貨物車駐車ます} \times \text{駐車回転率} \times \text{平均乗車人数}) \\ & \times \text{トイレ利用率} \times \text{性別比率} \times \text{ピーク率} \end{aligned}$$

【算定に用いた諸数値】

	項目	小型車	バス	貨物車
一般 SA (サービス エリア)	駐車ます(台)	116	3	4
	駐車回転率	1.8	2.6	
	平均乗車人数(人)	2.2	27	1.1
	トイレ利用率	0.76		
	性別比率	男:0.54 女:0.46		
	ピーク率	男:2.1 女:2.8		

出典：平均乗車人数(人)以下 「設計要領第六集 建築施設編」
(R1.7 東日本高速道路株式会社)

※駐車ます(台)・駐車回転率・平均乗車人数は駐車マス算定から得た数値
を使用

2) トイレ利用者数算定

- ・トイレ利用者(男) : $(116 \times 1.8 \times 2.2 + 3 \times 2.6 \times 27 + 4 \times 2.6 \times 1.1) \times 0.76 \times 0.54 \times 2.1 = 587.5 \therefore .590$ 人
- ・トイレ利用者(女) : $(116 \times 1.8 \times 2.2 + 3 \times 2.6 \times 27 + 4 \times 2.6 \times 1.1) \times 0.76 \times 0.46 \times 2.8 = 667.0 \therefore .670$ 人

3) 衛生陶器数算定方法

●男子トイレ

- ・小便器数 = 小便器利用率 × トイレ利用者(男) ÷ 小便器回転率
- ・大便器数(洋) = 大便器係数 × 小便器数 × 男子洋式便器設置率
- ・大型ブース = 1ヶ所
- ・オストメイト = 1ヶ所
- ・洗面器数 = トイレ利用者(男) ÷ 洗面器回転率

●女子トイレ

- ・大便器数(洋) = トイレ利用者(女) × 女子洋式便器設置率
÷ 女子洋式便器回転率
- ・大型ブース = 1ヶ所
- ・オストメイト = 1ヶ所
- ・洗面器数 = トイレ利用者(女) ÷ 洗面器回転率
- ・パウダールーム = 0.3 × 大便器数

●その他

多目的便器数 = 男女大便器数/50

【算定に用いた諸数値】

	便器 回転率	小便器 利用率	大便器 係数	洋式便器 設置率	洗面器 回転率
男	95人/h	0.8	0.75	1.0	360人/h
女	40人/h			1.0	215人/h

出典：「設計要領第六集 建築施設編」(R1.7 東日本高速道路株式会社)

※H29.9.25 国土交通省事務連絡「道の駅」のトイレの改善についてにおいて
洋式便器設置率は1.0としている。

	小便器	大便器	大型 ブース	オストメイト	パウダールーム	洗面	多目的
面積	3.0㎡	5.4㎡	8.8㎡	9.2㎡	2.2㎡	3.0㎡	10.8㎡

出典：「設計要領第六集 建築施設編」(R1.7 東日本高速道路株式会社)

4) 衛生陶器数及び面積算定

		衛生陶器数	面積
男子 トイレ	小便器数	$0.8 \times 590 \div 95 = 4.96$ ∴5か所	$5 \times 3 = 15.0\text{m}^2$
	大便器数 (洋)	$0.75 \times 5 \times 1.0 = 3.75$ ∴4か所	$4 \times 5.4 = 21.6\text{m}^2$
	大型ブース	∴1か所	$1 \times 8.8 = 8.8\text{m}^2$
	オストメイト	1か所	$1 \times 9.2 = 9.2\text{m}^2$
	洗面器数	1か所 $590 \div 360 = 1.63$ ∴2か所	$2 \times 3 = 6.0\text{m}^2$ 計 60.6m²
女子 トイレ	大便器数 (洋)	$670 \times 1.0 \div 40 = 16.75$ ∴17か所	$17 \times 5.4 = 91.8\text{m}^2$
	大型ブース	1か所	$1 \times 8.8 = 8.8\text{m}^2$
	オストメイト	1か所	$1 \times 9.2 = 9.2\text{m}^2$
	パウダールーム	$0.3 \times (15 + 2) = 5.1$ ∴6か所	$6 \times 2.2 = 13.2\text{m}^2$
	洗面器数	$670 \div 215 = 3.11$ ∴4か所	$4 \times 3 = 12.0\text{m}^2$ 計135.0m²
多 目 的 ト イ レ	大便器数	$(4 + 1 + 17 + 2) \div 50 = 0.48$ ∴1か所	$1 \times 10.8 = 10.8\text{m}^2$ 計 10.8m²

■計画B 「既存の駐車場が増えた割合からトイレの規模を想定した場合」

1) 衛生陶器数算定

係数 = 計画駐車場数 ÷ 既存駐車場数

$$= 126 \div 116 = 1.08 \quad \therefore 1.1$$

		衛生陶器数	面積
男子 トイレ	小便器数	$6 \times 1.1 = 6.6$ ∴7か所	$7 \times 3.0 = 21.0\text{m}^2$
	大便器数	$2 \times 1.1 = 2.2$ ∴3か所	$3 \times 5.4 = 16.2\text{m}^2$
	洗面器数	$2 \times 1.1 = 2.2$ ∴3か所	$3 \times 2.2 = 6.6\text{m}^2$
			計43.8m ²
女子 トイレ	大便器数	$5 \times 1.1 = 6.6$ ∴7か所	$7 \times 5.4 = 37.8\text{m}^2$
	洗面器数	$2 \times 1.1 = 2.2$ ∴3か所	$3 \times 2.2 = 6.6\text{m}^2$
			計44.4m ²
多目的 トイレ	大便器数	1か所	$1 \times 10.8 = 10.8\text{m}^2$ 計 10.8m ²

※係数に乗じた数値は既存屋外トイレの衛生陶器数である。

③ 情報発信施設

休憩・情報発信施設の規模は、「設計要領第六集 建築施設編」（令和元年7月 東日本高速道路株式会社）を参考に、駐車ます数に対する標準的な面積として「170 m²」と設定しました。なお、この面積には、休憩所、インフォメーション、救護室、事務室、湯茶接待室の他、子育て応援施設（授乳室・キッズコーナー）、サイクルステーション及び休憩スペースを含みます。

片側駐車ます数（台）	座席数	標準的な面積（m ² ）
300	80	250
250	60	210
200	60	210
150	40	170
100以下	30	140

出典：「設計要領第六集 建築施設編」（R1.7 東日本高速道路株式会社）

④ 農産物直売所・物販施設

農産物直売所及び物販施設の規模は、売上・駐車ます数等より、下記のとおりとなります。

(㎡)

	農産物直売施設	物販施設
既存	約260	
計画	240	170

算定の結果、農産物直売場及び物販施設の規模は「410㎡」と設定しました。

1) 農産物直売施設の規模算定

道の駅かつら農産物直売の売上と、「農林水産政策研究第16号 農産物直売所の経済分析」（平成21年10月 農林水産政策研究所）より、施設規模は「240㎡」と設定しました。

農産物直売所の経営規模

		事業所数	従業者数 (人)	売場面積 (㎡)	購入者数 (人)
販 売 金 額	5億以上	31	25.5	909	41.3
	3~5億	58	14.9	487	28.7
	2~3億	107	11.8	397	22.8
	1~2億	266	8.3	234	15.6
	5千万~5億	380	6.3	203	8.8
	5千万円未満	1,276	5.9	108	3.3

出典：農林水産政策研究第16号 農産物直売所の経済分析

(H21.10 農林水産政策研究所)

2) 特産品販売施設の規模算定

物産施設の規模については、「設計要領第六集 建築施設編」（令和元年7月 東日本高速道路株式会社）を参考に、駐車ます数に対する標準的な面積として「170㎡」と設定します。なお、農産物直売スペースとの境界をフレキシブルな扱いとし、農産物が少なくなる時期には、物産スペースを広げられるよう検討しました。

ハイウェイショップの標準規模

片側駐車ます数(台)	標準的な面積 (m ²)
300	255
250	200
200	200
150	170
100以下	160

出典：「設計要領第六集 建築施設編」(R1.7 東日本高速道路株式会社)

⑤ 飲食施設

飲食店の規模は、「設計要領第六集 建築施設編」(R1.7 東日本高速道路株式会社)を用いて算定しました。

(m²)

	食堂	厨房	蕎麦打ち室	附属室	合計
既存	約82	約36	約6	約96	220
計画	135	54	6	243	438

算定の結果、飲食施設の規模は「440m²」と設定しました。

1) レストランの規模算定方法

「設計要領第六集 建築施設編」(R1.7 東日本高速道路株式会社)を用いて算定しました。

$$\begin{aligned} \text{食堂利用者数} = & (\text{小型車駐車ます} \times \text{駐車回転率} \times \text{平均乗車人数} \\ & \times \text{食堂利用率} + \text{バス駐車ます} \times \text{駐車回転率} \\ & \times \text{平均乗車人数} \times \text{食堂利用率} + \text{貨物車駐車ます} \\ & \times \text{駐車回転率} \times \text{平均乗車人数} \times \text{食堂利用率}) \div \text{食堂回転率} \end{aligned}$$

$$\text{食堂面積} = \text{食堂利用者数} \times \text{1人当り面積}$$

【算定に用いた諸数値】

	項目	小型車	バス	貨物車
一般 サービス エリア	駐車ます(台)	119	3	4
	駐車回転率	1.8	2.6	
	平均乗車人数(人)	2.2	27	1.1
	食堂利用率	0.3	0.1	0.3
	食堂回転率	2.0人/h		
	1人当りの面積	1.6m ² /人		

出典：平均乗車人数(人)以下「設計要領第六集 建築施設編」

(R1.7 東日本高速道路株式会社)

※駐車ます(台)・駐車回転率・平均乗車人数は駐車マス算定から得た数値を使用

2) レストランの規模算定

$$\begin{aligned} \text{席数} &: (119 \times 1.8 \times 2.2 \times 0.3 + 3 \times 2.6 \times 27 \times 0.1 \\ &+ 4 \times 2.6 \times 1.1 \times 0.3) \div 2. = 82.9 \quad \therefore 83 \text{人} \end{aligned}$$

$$\text{食堂面積} : 83 \times 1.6 = 132.8 \quad \therefore 135 \text{m}^2$$

3) 厨房施設の規模算定

「設計要領第六集 建築施設編」（R1.7 東日本高速道路株式会社）を用いて、食堂の約40%で算定しました。

$$\text{厨房面積} : 135 \times 0.4 = 54 \text{m}^2$$

4) その他必要な附属室（従業員休憩室、事務室、倉庫、トイレ等）

「設計要領第六集 建築施設編」（R1.7 東日本高速道路株式会社）を用いて、食堂の約180%で算定しました。

$$\text{附属室面積} : 135 \times 1.8 = 243 \text{m}^2$$

⑥ 屋内交流施設

30名程度の研修や講演が行える屋内交流施設を想定し規模を算定します。算定の結果「75m²」と設定しました。

$$\begin{aligned} \text{会議室の1人当たりの面積は} & 2 \sim 3 \text{m}^2/\text{人} \rightarrow 2.5 \text{m}^2/\text{人} \text{で算定} \\ \text{※会議室を計画するにあたって一般的に使用される数値} & \\ 30 \text{人} \times 2.5 \text{m}^2/\text{人} & = 75 \text{m}^2 \end{aligned}$$

⑦ 多目的広場

イベント広場の規模の算定方法は、「手引き等」では規定されていないため、「開発行為の技術基準」（平成10年10月 茨城県）で定めている開発時に確保すべき最低公園規模「1箇所あたり400m²以上」を参考に最低規模を設定しました。

⑧ その他

1) オートキャンプ場施設算定方法

ふれあい広場をキャンプ場に再整備し、道の駅かつらに管理機能を持たせる場合の施設規模を算定します。「自然公園等施設技術指針」第3部施設別技術指針 第3章 野営場（平成25年7月 環境省）を用います。

2) 主要施設の所要規模算定

管理棟を道の駅敷地内に設置する場合は、100人用の規模を想定し、

「50㎡」と設定します。

野営場施設の所要規模の例

	100人用	150人用	200人用
テントサイト	3,000㎡	4,500㎡	6,000㎡
炊事棟	33㎡	33㎡	66㎡
給水施設	15 t	22 t	30 t
管理棟	50㎡	50㎡	75㎡

出典：「自然公園等施設技術指針」第3部 施設別技術指針 第3章 野営場
(H25.7 環境省)

⑨ 施設規模のまとめ

以下に全ての施設面積の算定結果を示します。

【各施設規模】 (m²)

機能	施設名	建物施設規模	敷地施設規模
休憩機能 情報発信施設	駐車場		5,300
	トイレ	100~200	1,145~1,295
	情報発信施設 ・休憩所	170	
地域連携機能	農産物直売所 ・物販施設	410	
	飲食施設	440	
	屋内交流施設	75	
	多目的広場		400
計画合計		1,195~1,295	6,845~6,995
既存合計		650	約9,600

※既存敷地面積はふれあい広場駐車場を含む

建物規模は「1,400m²」程度とし、敷地規模は既存と同程度「9,600m²」
以上は必要と思われます。

【ふれあい広場再整備】 (参考) (m²)

施設名	建物施設規模	敷地施設規模
オートキャンプ場	50	約10,000

※敷地施設規模はふれあい広場及び屋外トイレ廻りの面積

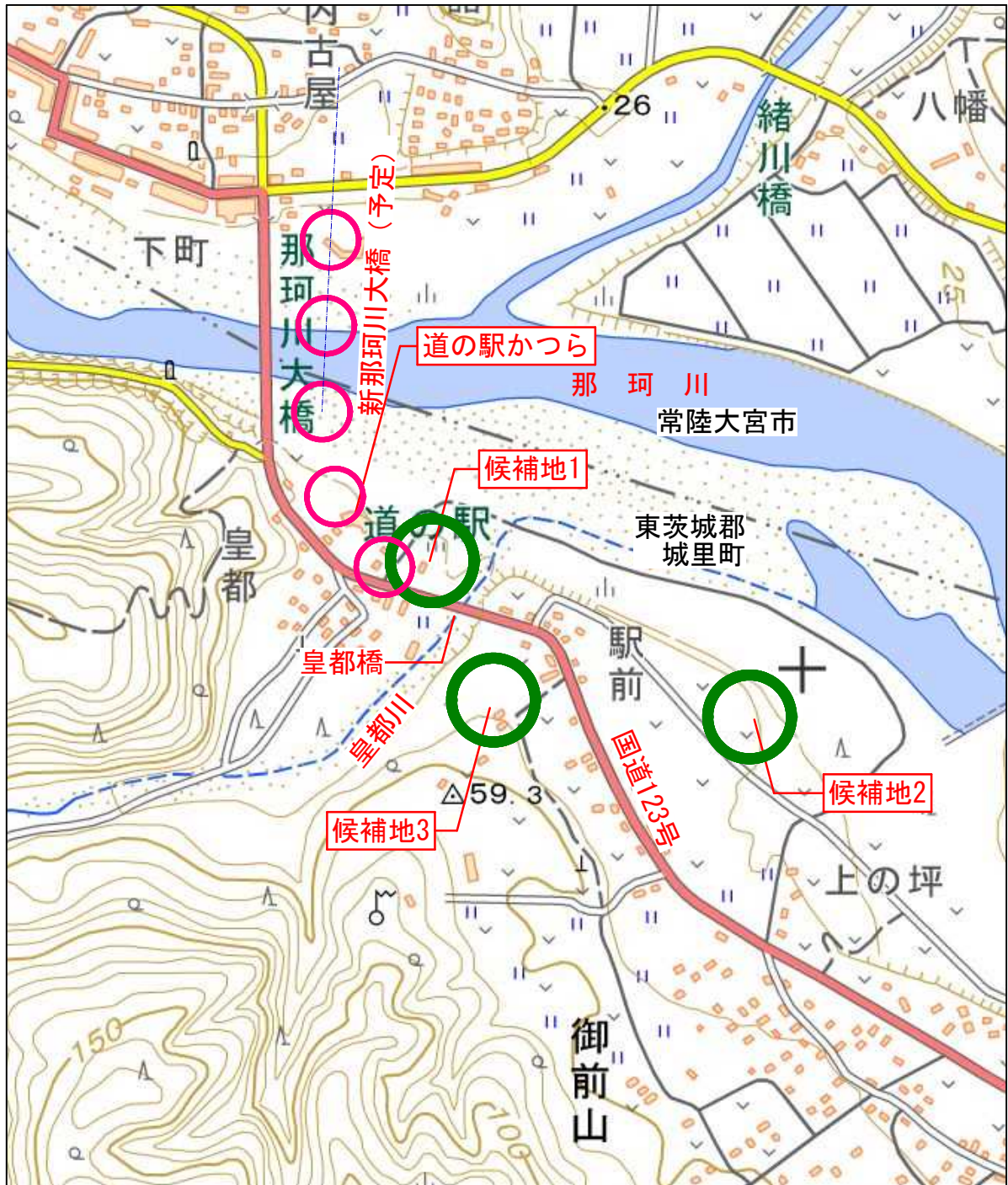
【県内道の駅参考規模】 (一部) (m²)

	建物規模	敷地規模
ひたちおおみや	1,980.2	55,884
ひたちおおた	1,822.0	22,000
グランテラス筑西	4,481.0	47,709
ごか	1,312.0	20,000
かさま (建設中)	2,925.0	32,500

7. 道の駅立地計画の検討

(1). 候補地エリアの検討

候補地の選定については、既存施設と同様に国道123号沿線を立地路線とし、現在の道の駅がある御前山地区内で検討しました。候補地は、国道123号より北側で那珂川に隣接する土地から2か所、国道123号より南側で御前山を含む山に隣接する土地から1か所を候補地としました。



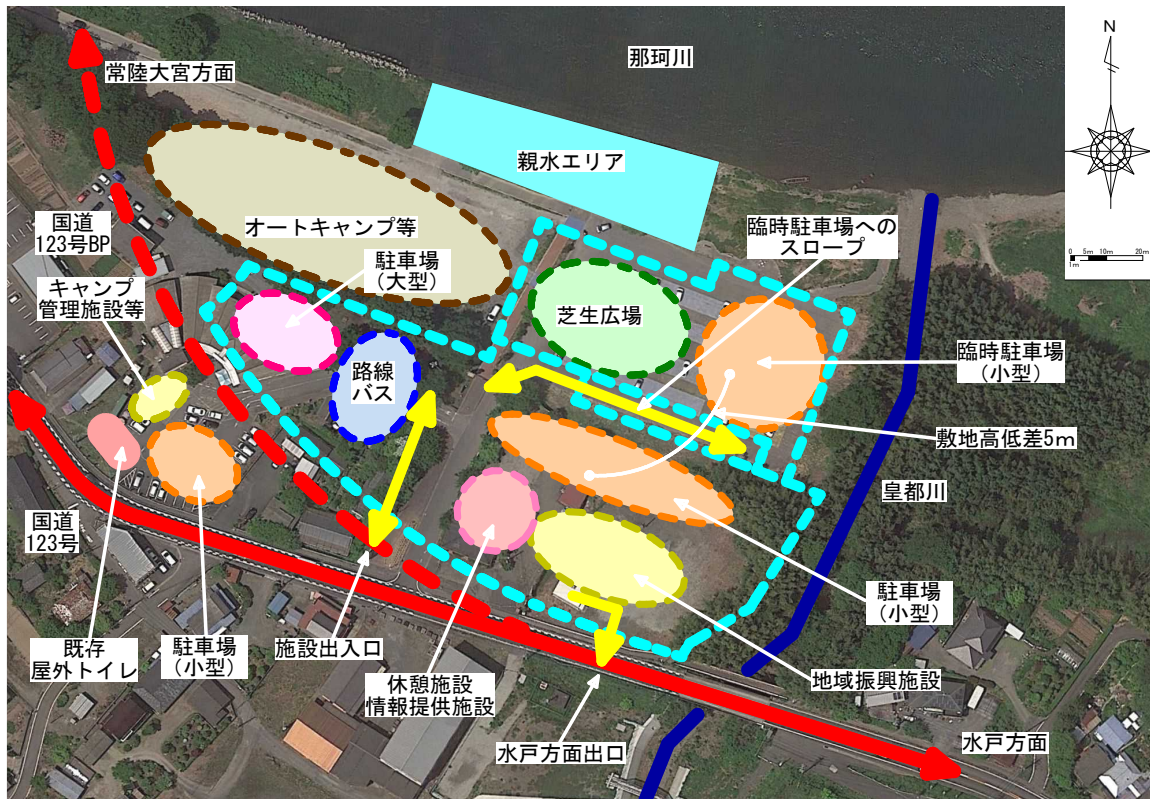
※現在の候補地については地権者等の権利者の方に了承をいただいたものではありません。

(2). 候補地比較

評価項目	候補地1 (既存隣接)	候補地2 (桂運動公園付近)	候補地3 (山側)
那珂川への 関連性 (親水性)	すでにかわまちづくりとして整備された親水エリアを一体的に利用することで、親水空間を生かした道の駅となり集客効果のある付加価値が生まれる。	既存の道の駅から離れ、親水域や河川から遠くなるイメージではあるが、道の駅と桂運動公園を関連づけ、河川側に親水域を整備できれば親水イメージを図ることが可能。	既存の道の駅から離れ、山側となり河川から離れるため一体的な親水イメージは図れない。また安全に川へ行くためには国道を横断するための信号や歩道整備の必要がある。
	◎	△	△
出入りの しやすさ	国道がカーブしているが、道路整備と併せて乗り入れ部を整備することにより、通行車両の視認性が良くなり出入りしやすくなる。	敷地が国道から離れているため、乗り入れしやすい取付道路を整備すれば出入りしやすくなる。	水戸方面から来る利用者は、進行方向の左側に施設があるため入りやすいが、水戸方面に出る場合は国道のカーブがきつく、見通しが悪いため出にくい。
	○	△	○
敷地内の 高低差と 浸水被害 の危険性	建物は浸水被害を受けない高い地盤に計画し、地盤の低い既存の道の駅部分は、高い地盤に合わせて土盛り造成することにより、浸水被害を受けない計画とするが、造成のためのコストが掛かる。キャンプ場と芝生広場は河川区域のため、ほぼ現状のレベルとなる。	敷地の端から端までの高低差はあるが、ほぼ平坦であり、比較的造成のコストを抑えられる。 河川から高い位置にあり浸水被害を受けない。	敷地の端から端までの高低差はあるが、ほぼ平坦であり、比較的造成のコストを抑えられる。 河川から高い位置にあり浸水被害を受けない。
	○	◎	◎
土地の広 さ	既存の道の駅かつらと同規模程度の敷地面積が確保できる。	既存の道の駅かつらの敷地面積より広く確保できる。	既存の道の駅かつらの敷地面積より広く確保できる。
	○	◎	◎
敷地から の眺望	盛土により敷地の高さが上がり、御前山や那珂川大橋への眺望が格段に良くなる。	御前山は望めるが、手前に建築物や太陽光発電があり、眺望が良いとは言えない。 また、河川区域界に林があり那珂川への眺望は望めない。	敷地が高台のため御前山への眺望は格段に良いが、那珂川大橋からは少し離れるため遠く望むようになる。川への眺望は望めない。
	◎	△	○
施設への 視認性	ほぼ既設の位置であり、道の駅として認知されやすく、建物は国道に面した計画であるため視認性は非常に良い。	国道から離れた場所に施設を建てることになり、施設そのものの視認性は良くないが、取付道路や乗り入れ部の整備とサイン等で道の駅の認知度を上げることは可能。	国道に宅地建物が立ち並んでいるため、水戸方面からは妨げとなり施設への視認性は悪いので、乗り入れ部の整備とサイン等で道の駅の認知度を上げることは可能。 常陸大宮方面からは視認性は良い。
	◎	△	○
既存施設 の利用	親水エリアはそのまま活用でき、ふれあい広場や駐車場を再整備することにより、新たな道の駅と一体感が出て連携が図れる。 また国道や側道の計画によるが、出来て間もない既存屋外トイレが有効に利用できる可能性がある。	既存施設とは敷地が離れているため、再整備をしても新設する道の駅とは連携が図れない。 再整備するには候補地1より費用がかかる。	既存施設とは敷地が離れているため、再整備をしても新設する道の駅とは連携が図れない。 再整備するには候補地1より費用がかかる。
	◎	△	△
総合評価	◎		○

(3) 施設関連イメージ図

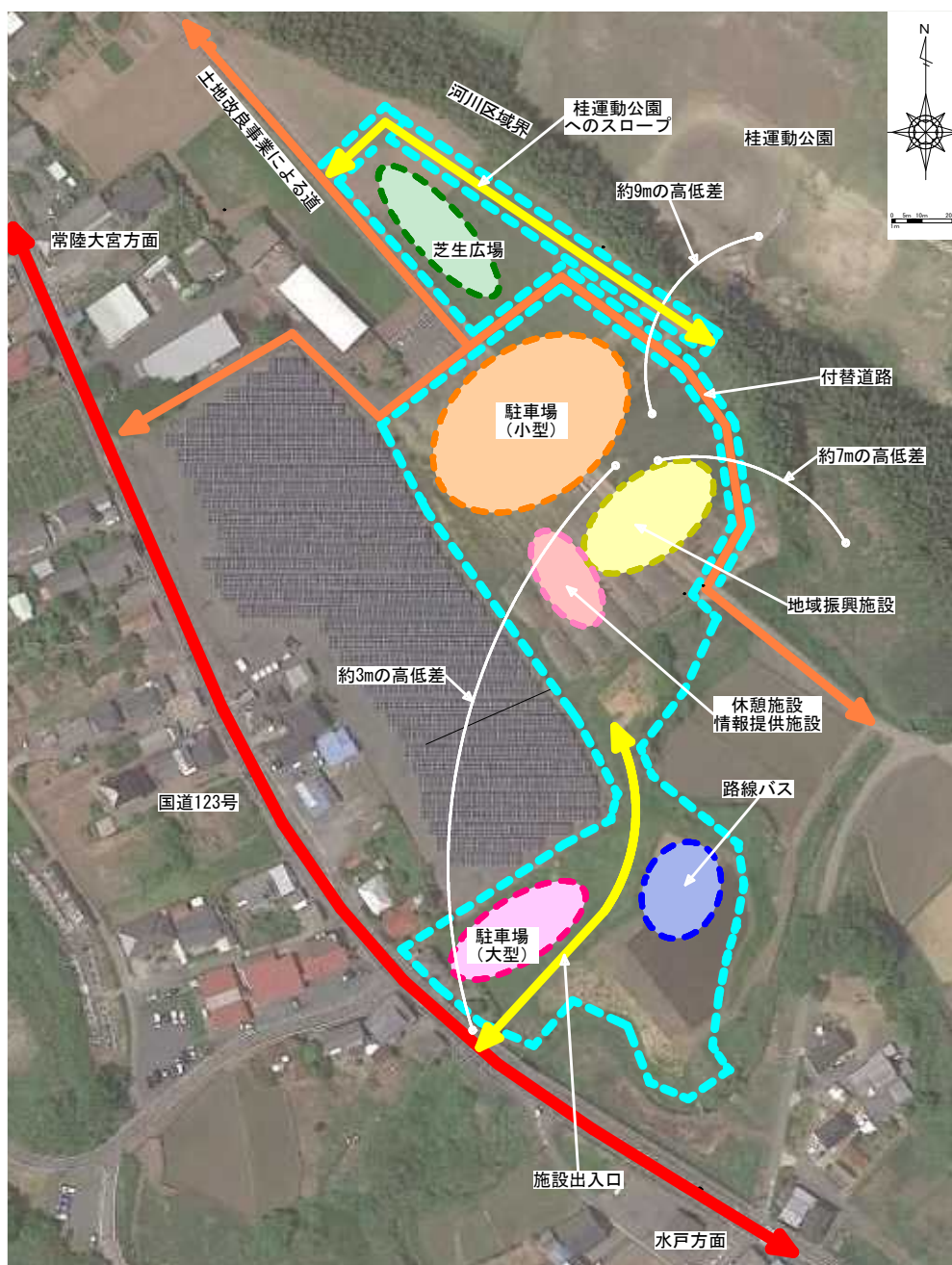
候補地1（既存隣接）施設関連イメージ図



- ・施設の出入口は敷地中央付近に整備
- ・水戸方面への出口を整備
- ・建物は既存道の駅が営業中でも建設できる位置
- ・出入口から西側を路線バス・観光バスなどの大型車スペースとし、建物前面の小型車スペースと分離
- ・スロープを設け、河川区域に駐車場・広場などの整備 ※1
- ・既存屋外トイレの位置にキャンプ場等の管理事務所を建設し、ふれあい広場をオートキャンプ場等として整備

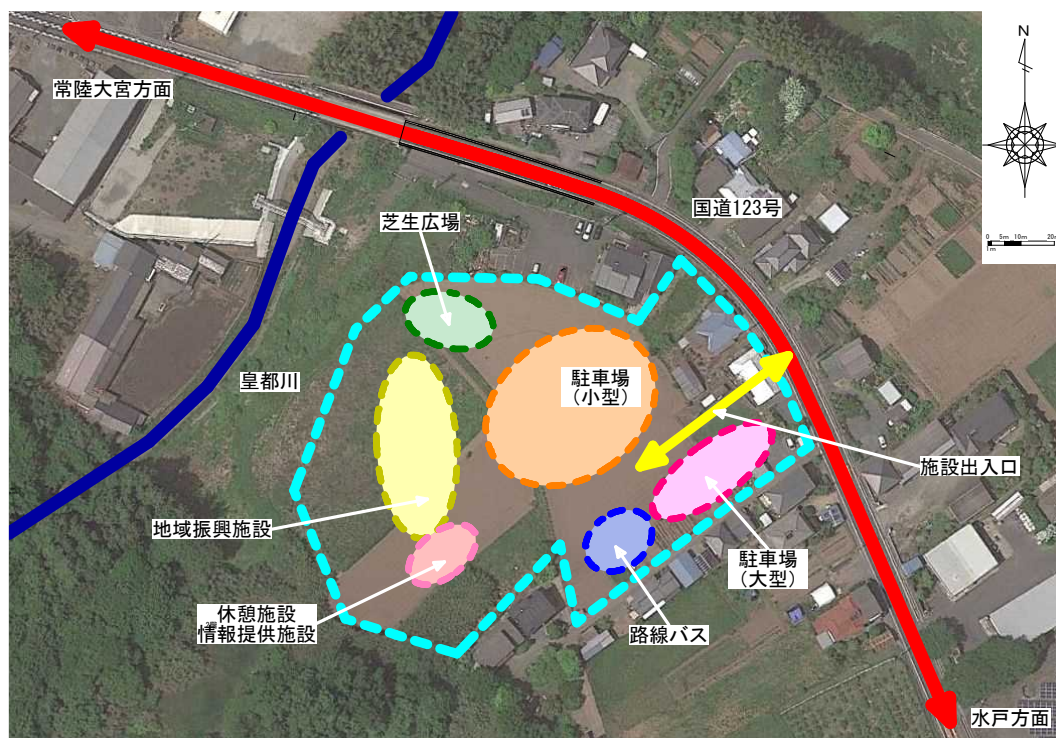
※1 候補地1は河川区域に掛かるため、河川区域内の施設配置計画については、今後の国の堤防工事計画に配慮し、占用許可を受ける必要がある。（堤防整備時に撤去等が生じる可能性がある。）

候補地2（桂運動公園付近）施設関連イメージ図



- ・メガソーラー発電所の東側に施設出入口を整備
- ・施設出入口附近を路線バス・観光バスなどの大型車スペースとし、建物前面の小型車スペースと分離
- ・那珂川大橋・那珂川・御前山方面を正面になるように建物を配置
- ・景観が良い場所に芝生広場を整備
- ・既存道路は一部付け替え
- ・桂運動公園へ降りるスロープ（検討要）

候補地3（山側）施設関連イメージ図



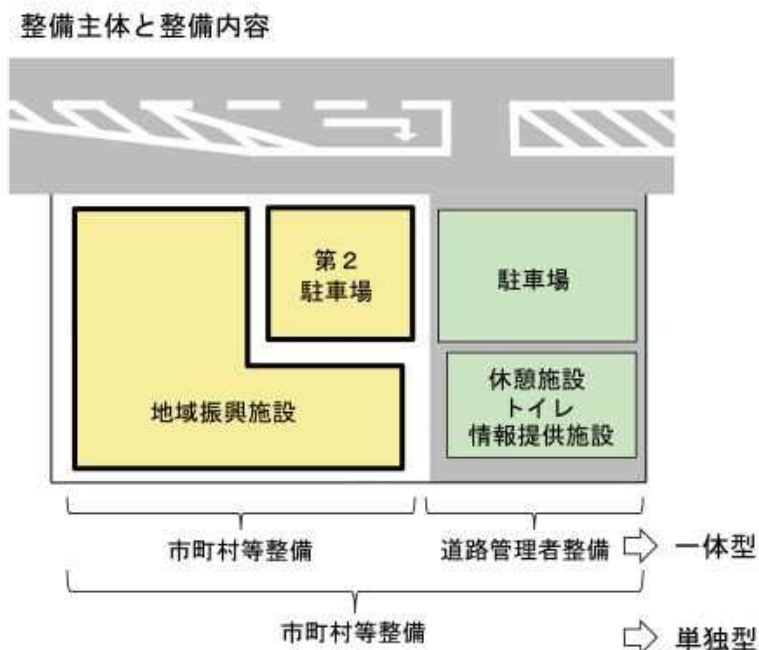
- ・ 国道123号との土地高低差が少ない位置に施設出入口を整備
- ・ 施設出入口から東側を路線バス・観光バスなどの大型車スペースとし、建物前面の小型車スペースと分離
- ・ 景観が良い場所に芝生広場を整備

8. 道の駅の整備・管理運営手法の検討

(1). 道の駅の整備主体及び整備手法

道の駅の整備手法については、道路管理者と市町村等で整備する「一体型」と、市町村で全て整備を行う「単独型」の2種類があります。

本町の整備手法については、今後、本構想等に基づき道路管理者等の関係機関と調整を進めていきます。



設置者		城里町
整備手法	一体型	道路管理者と市町村が一体となり整備する手法 「さとみ」, 「さかい」, 「奥久慈だいご」, 「しもつま」, 「たまつくり」, 「いたこ」, 「ごか」, 「まくらがの里こが」, 「常陸大宮」, 「ひたちおおた」, 「グランテラス筑西」, 「(仮称)笠間」, 「(仮称)龍ヶ崎」
	単独型	市町村が単独で全てを整備していく手法 「みわ」, 「日立おさかなセンター」

(2). 管理運営方式

管理運営については引き続き「(株)桂ふるさと振興センター」とします。

9. 資料

1) 「道の駅かつら」 ご利用アンケート

この度は道の駅かつらをご利用いただき誠にありがとうございます。

道の駅として今後も皆様の利用しやすい施設を目指し、みなさまのからのアンケートを募り反映させていきたいと考えておりますのでご協力をお願い致します。

該当するものに○を付けて下さい（その他で記入するものがございましたらご記入願います）

(1) あなたの性別を教えてください。

1. 男性 2. 女性

(2) あなたの年齢（年代）を教えてください。

1. 20歳未満 4. 40歳代
2. 20歳代 5. 50歳代
3. 30歳代 6. 60歳以上

(3) あなたの居住地はどちらですか？

※県内の方は市町村名を、県外の方は都道府県名を記入してください。

() 都・道・府・県 () 市・町・村

(4) 「道の駅」を利用される一番の目的は何ですか？

1. 休憩・トイレ
2. 食事・買物
3. その「道の駅」にしかない施設の利用（バーベキュー・入浴・体験等）
4. その他（ ）

(5) ドライブにおける「道の駅」の位置付けについてあてはまるものはどれですか？

1. 走行中、見かけると必ず立ち寄る
2. 特段目的がなければ寄らない
3. 目的地の一つであり、事前に調べてから出かける
4. その他（ ）

(6) 事前に何を調べますか？

※ (5) で「目的地の一つであり、事前に調べてから出かける」と答えた方のみ回答

1. お土産（特産品含む） 4. EV 充電器の有無
2. レストラン・食堂情報 5. その他（ ）
3. 営業時間

(7) 「道の駅」にこんなサービスがあればと思うものは何ですか？

[回答]（複数回答可。最大3つまで。）

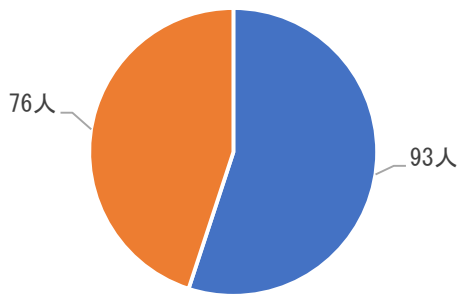
1. 入浴関連施設 8. インターネット通信等の環境整備
2. 給油（ガソリンスタンド） 9. 現状で満足・特になし
3. 各種情報提供 10. こども向け施設
4. 営業時間の延長 11. 携帯電話充電サービス
5. 仮眠施設 12. マッサージ
6. ATM 13. ペット関連施設
7. ドリンクサービス 14. その他（ ）

- (8) 「道の駅」での買い物に一人あたりどのくらいお金を使いますか？
1. 1,000 円以下
 2. 1,000 円～3,000 円未満
 3. 3,000 円～5,000 円未満
 4. 5,000 円以上
 5. お金を使わない
- (9) 「道の駅かつら」のご利用頻度を教えてください。
1. ほぼ毎日
 2. 週に2～3回
 3. 週に1回
 4. 月に2～3回
 5. 月に1回
 6. 半年に2～3回
 7. 年に2～3回
 8. 年に1回
 9. 初来店
- (10) 「道の駅かつら」脇の河川敷でバーベキューやキャンプなどを楽しまれたことはありますか？
1. ある
 2. ない
- (11) バーベキューやキャンプ等の利用は何回目ですか？
- ※ (10) で「ある」と答えた方のみ回答
1. 1回
 2. 2～4回
 3. 5回以上
- (12) 御前山のハイキングについてお尋ねします。
1. ハイキングをしたことがある
 2. ハイキングができることは知ってはいるが行ったことがない
 3. ハイキングができることを知らない
- (13) 御前山のハイキングへは何回行きましたか？
- ※ (12) で「ハイキングをしたことがある」と答えた方のみ回答
1. 1回
 2. 2～5回
 3. 6～10回
 4. 11回以上
- (14) 現在の「道の駅かつら」の魅力は何だと思えますか。(複数回答可)
1. 景色(山、川、橋)
 2. 食事
 3. 農産物
 4. お土産
 5. 施設
 6. キャンプ
 7. バーベキュー
 8. その他()
- (15) ご意見等ございましたらご自由にお書きください。

ご回答いただき誠にありがとうございました。

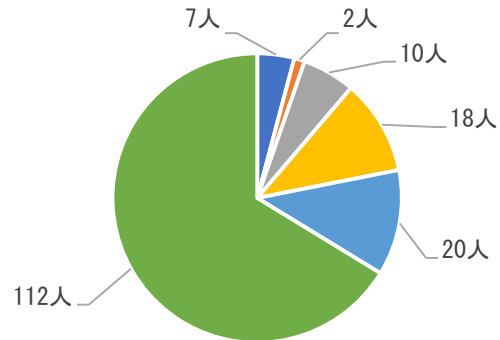
2) アンケート結果

(1) あなたの性別を教えてください。



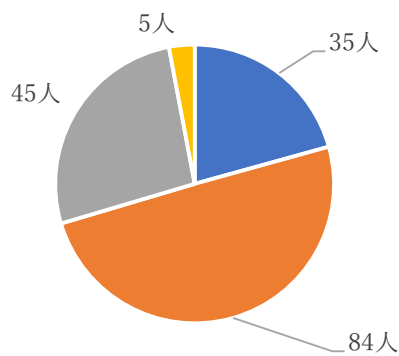
■ 男性 ■ 女性

(2) あなたの年齢を教えてください。

■ 20歳未満 ■ 20歳代 ■ 30歳代
■ 40歳代 ■ 50歳代 ■ 60歳以上

合計117人 前回から+65人

(3) あなたの居住地はどちらですか。



■ 県外 ■ 県内 ■ 町内 ■ 未回答

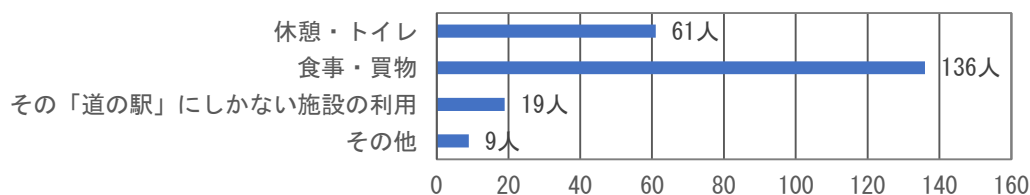
県内

- ・ 常陸大宮市……18人
- ・ 水戸市……28人
- ・ 那珂市……8人
- ・ 小美玉市……3人
- ・ 笠間市……4人
- ・ 日立市……7人
- ・ 龍ヶ崎市……1人
- ・ ひたちなか市…12人
- ・ 石岡市……5人
- ・ 常陸太田市……3人
- ・ 潮来市……1人
- ・ 茨城町……2人
- ・ 神栖市……2人
- ・ つくば市……1人
- ・ 高萩市……1人
- ・ 常総市……1人
- ・ 筑西市……1人
- ・ 東海村……1人
- ・ 鉾田市……1人
- ・ 土浦市……1人
- ・ 未回答……6人

県外

- ・ 東京都……8人
- ・ 栃木県……10人
- ・ 福島県……1人
- ・ 千葉県……8人
- ・ 埼玉県……8人

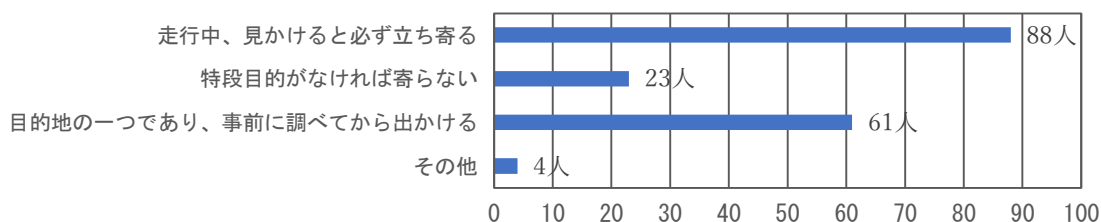
(4) 「道の駅」を利用される一番の目的は何ですか？



その他の意見

- ・ キャンプ…………… 10人
- ・ その土地独自の野菜果物を購入…1人
- ・ 物が新鮮なので…………… 1人

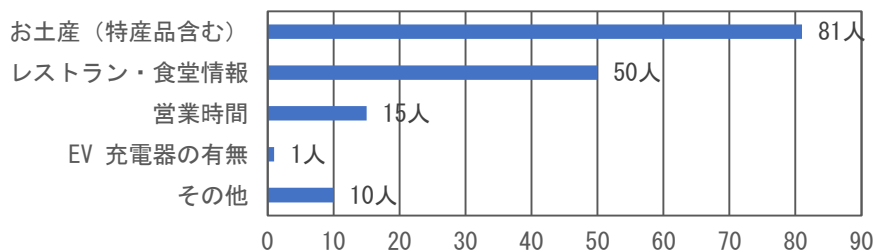
(5) ドライブにおける「道の駅」の位置付けについてあてはまるものはどれですか？



その他の意見

- ・ 道の駅スタンプラリー…………… 1人
- ・ 買い物…………… 1人
- ・ 道の駅が家と近いから…………… 1人

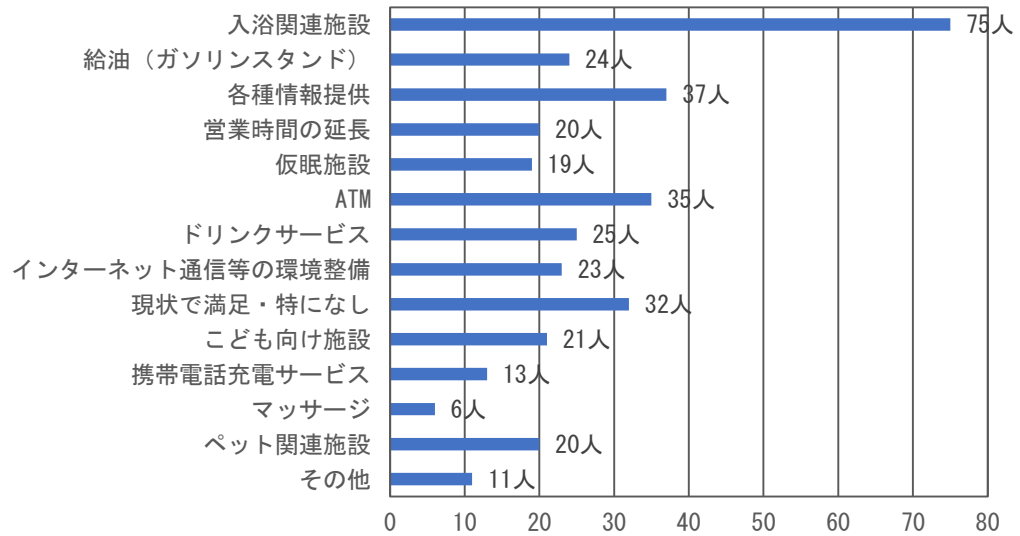
(6) 事前に何を調べますか？



その他の意見

- ・ キャンプ…………… 2人
- ・ 犬の散歩、リフレッシュ…………… 1人
- ・ その他周りの観光、近郊の宿泊施設…………… 1人
- ・ バーベキューの出来る所…………… 1人
- ・ 野菜の購入…………… 1人

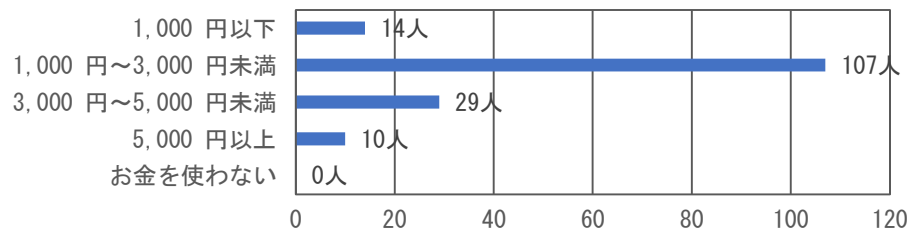
(7) 「道の駅」にこんなサービスがあればと思うものは何ですか？



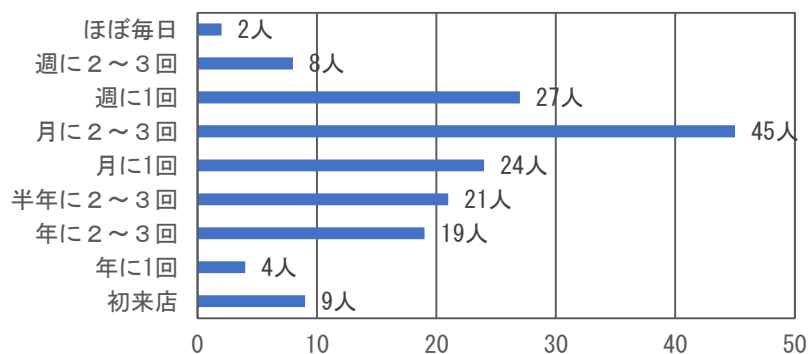
その他の意見

- ・ドックラン……………1人
- ・屋台。……………1人
- ・RVパーク。……………2人
- ・キャンプ場近くにトイレが欲しい。…1人
- ・食堂の品数を増やして欲しい。……………2人
- ・品数の充実、カード利用。……………1人
- ・駐車スペースを広く。……………1人
- ・園芸品。……………1人
- ・地元の農家出品の野菜が少ない。……1人
- ・トイレの清潔さ。……………1人

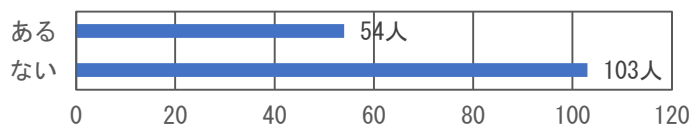
(8) 「道の駅」での買い物に一人あたりどのくらいお金を使いますか？



(9) 「道の駅かつら」のご利用頻度を教えてください。

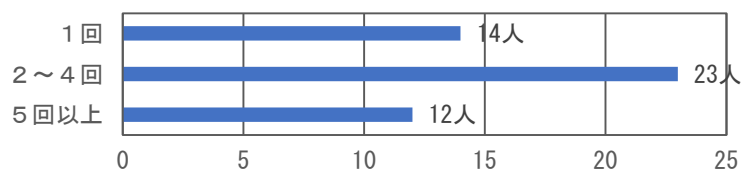


(10) 「道の駅かつら」脇の河川敷でバーベキューやキャンプなどを楽しまれたことはありますか？

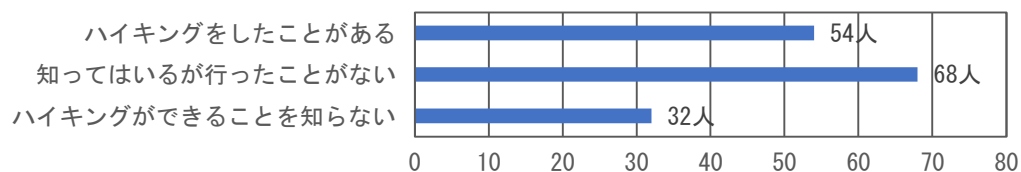


(11) バーベキューやキャンプ等の利用は何回目ですか？

※ (10) で「ある」と答えた方のみ回答



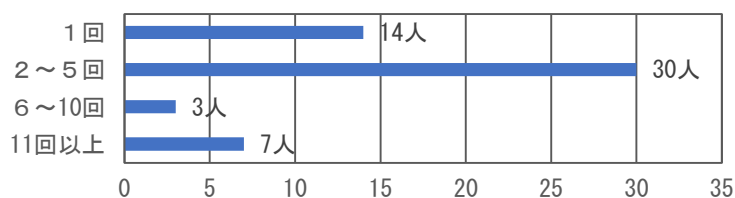
(12) 御前山のハイキングについてお尋ねします。



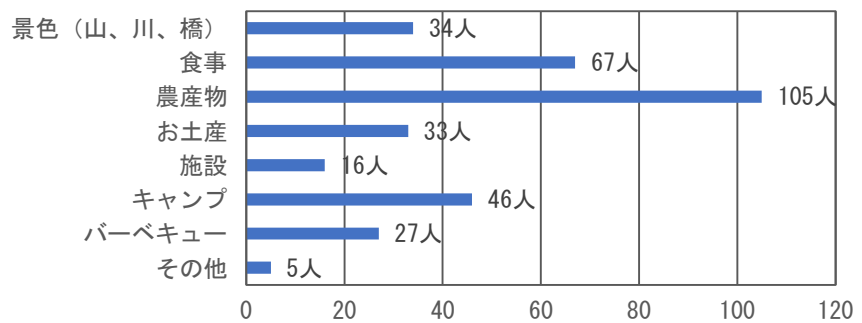
- ・ハイキングが出来ることは知っていて、行きたいと
思ってるが少し遠い。距離がある。……………1人

(13) 御前山のハイキングへは何回行きましたか？

※ (12) で「ハイキングをしたことがある」と答えた方のみ回答



(14) 現在の「道の駅かつら」の魅力は何だと思いますか。



その他の意見

- ・ 本当につろげます。大好きです。……………1人
- ・ 花が安くてとても良い。……………1人
- ・ お蕎麦がとても美味しい。特に、きのこそば。…1人
- ・ 限定品。……………1人
- ・ 施設（トイレ）。……………3人

(15) ご意見等ございましたらご自由にお書きください。

● 駐車場

- ・ パーキングが広くなれば良い (60歳以上 男性)
- ・ 駐車場の整備 (60歳以上 男性)
- ・ 駐車場を広く (60歳以上 男性)
- ・ 駐車場が狭い (60歳以上 男性)
- ・ 駐車場が狭く、高齢者にはとても危ない。 (50歳代 女性)
- ・ 駐車場は広くきれいに。 (60歳以上 女性)
- ・ 駐車場が狭い。 (60歳以上 女性)
- ・ 駐車場の整備。 (60歳以上 女性)
- ・ 駐車場が狭い。 (60歳以上 女性)
- ・ お店の前の駐車場がもう少し広いといいと思います。頑張ってください。 (30歳代 女性)
- ・ 駐車スペースを拡大して欲しい。 (60歳以上 女性)

● トイレ

- ・ トイレがきれいになったのでよかった。有難い。 (60歳以上 女性)
- ・ トイレは特にきれいにしてください。 (60歳以上 女性)
- ・ トイレが良くなって綺麗でした。 (60歳以上 男性)
- ・ トイレが新しくなり、お湯が出るので手洗い(感染防止上でも)が苦にならない。 (60歳以上 男性)
- ・ 道の駅にトイレはありますが、キャンプ場にもあると良いです。 (60歳以上 男性)

- ・ いつもトイレがきれいで気持ちいいです。 (50歳代 女性)
- ・ 特にトイレは良い。 (60歳以上 男性)
- ・ トイレも綺麗だったし、水も温かくて良かった。有り難うございました。 (40歳代 女性)
- ・ いつもトイレを綺麗にして頂き有り難うございます。 (50歳代 女性)

● 出入口

- ・ 出入口がはっきりしない。 (60歳以上 女性)
- ・ 入口が入りにくい。 (60歳以上 女性)

● 食事

- ・ もう少し軽食が充実したらと思う。(ジェラート屋以外は売店のまんじゅう類しか見かけなく。やや小腹満たしに不満有り) (40歳代 男性)
- ・ レストランは魚、肉もメニュー化してほしい。 (60歳以上 男性)
- ・ おそばがおいしいです。 (50歳代 女性)
- ・ そばがおいしいと聞いて来ていますが、まさにおいしいです。これからも美味しいそばをお願いします。 (60歳以上 女性)
- ・ そばはこれからもこの店でやってほしい。 (60歳以上 女性)
- ・ 蕎麦がとても美味しいです。 (50歳代 男性)
- ・ 食事(おそば)おいしいので楽しみに来店します。 (60歳以上 男性)
- ・ 食事が今の料金は高い。食事の量を一定では無く普通・少量があった方が良い。 (60歳以上 男性)
- ・ 併設の蕎麦屋さんが美味しいです。 (60歳以上 女性)
- ・ 蕎麦がとっても美味しいです。 (60歳以上 女性)
- ・ 御前山の橋の架替えの噂を聞き、それに伴いかつらの移転(仮設)に不安。きのこそばの大ファンです。食べられなくなったり、味が変わったりすることなく、今のままで頑張ってください。切なるお願いです。日本一のきのこそばです。食堂(そば屋)の雰囲気、サービス(接客が良い)、そばを打っているおじさんもとても良い。等々なので現状のままで継続希望。 (60歳以上 女性)
- ・ 食堂のメニューにご飯ものが欲しい。 (30歳代 男性)
- ・ とりあえず最高でした。売店の鮎を焼いてたおじさんも親切でした。 (30歳代 男性)
- ・ 豆おこわ美味しかったです。 (40歳代 女性)
- ・ そば、うどん等も美味しいですが、地域の野菜などを利用したラーメン(タコ)等が有ったらいいですね。千葉の佐原の道の駅のラーメン美味しいです。 (60歳以上 女性)
- ・ もう少し食事の内容を考えてね。 (60歳以上 女性)

●品揃え

- ・最近、地元の野菜が少なくつまらない。 (40歳代 女性)
- ・野菜は今のまま地場産が良い。 (60歳以上 女性)
- ・農産物の品揃充実 (60歳以上 男性)
- ・地元で生産された農産物での加工品が無い。(ゆず関連など) (60歳以上 男性)
- ・花の苗を多くして欲しい。苗の情報も詳細に書いて欲しい。(60歳以上 女性)
- ・まんじゅうが高い。(60歳以上 女性)
- ・キャンプをする人の「あるある」は忘れ物です。調味料の忘れ物をした時に、小ぶりの醤油や一回使い切りのお塩があると助かります。焼き肉のたれも有ると助かります。(50歳代 女性)
- ・品物が豊富でとても良いと思います。(60歳以上 女性)
- ・月に1、2度は花を買っています。種類が多くて安いので利用しています。ガーデニング用の花を増やして頂ければ。(60歳以上 女性)

●施設規模

- ・GoToトラベルで人が増えたせいか、以前より、気持ちよく買い物が出来なくなった。レジとかで人が密集する為、買う品物がなければ、よりたくない気持ちがある。(50歳代 女性)
- ・現在の場所で拡大して営業して欲しい。(50歳代 女性)
- ・店内も狭い。(60歳以上 女性)
- ・店は広くした方がよい。(60歳以上 女性)
- ・買い物の時に通路が狭いので他の人とぶつかりそうになってしまう。蕎麦店を2階にすれば1階部分が広がるかも。(60歳代以上 男性)
- ・最近の綺麗な道の駅(大宮、太田など)も良いですが、地域の特色を活かした感じもとても良いです。(40歳代 男性)

●建物

- ・建物が古くなってきたので建て替えてくれるとうれしい。道の駅おおみやみたいに。(40歳代 男性)
- ・外観も内装も今のかつらが好きなので、そのままの姿でのこしてほしい。(30歳代 女性)
- ・御前山大橋の建て替え工事に伴い、道の駅かつらもリニューアルできたらよい。(50歳代 女性)
- ・将来、建替えるのであれば、いろんな所に道の駅が増えていますが、全く個性の無いスーパーのような建築で面白くありません。「かつら」が出来た頃は嬉しくて、毎週通っていました。今のこの雰囲気を生かしてください。(50歳代 男性)
- ・アウトドア指向が増えると思われるので、道の駅の外装リニューアルとSNS発信など大切だと思えます。御前山の橋の美観等併せて行えばアピール度UP! (60歳代 男性)

●キャンプ

- ・入浴施設を作りキャンプ場として有料にすべき。 (50歳代 女性)
- ・キャンプ利用者する方にも有料にして設備を整えて、道の駅大子のように、入浴施設を併設してはどうでしょうか。 (50歳代 女性)
- ・シャワーだけでもいいので欲しい。炊事場 (30歳代 男性)
- ・このままずっとキャンプできますように。 (30歳代 女性)
- ・キャンプではなく、車中泊で利用してます。BBQやキャンプ利用をしたいと思うのですが、マナーなどが気になり、有料のキャンプ場にしてもらえたら是非利用したい。近くのふれあいの里など、よく利用するので低料金だと有難い。お土産も買います。 (40歳代 女性)
- ・キャンプ利用者が増えて、人も増えて良いが、マナーを守っていない人もいる。大変だと思うが時々でもいいので、マナーの悪い人には注意して欲しい。 (40歳代 女性)
- ・無料でキャンプが出来るのは助かるが、きれいなトイレも使えて、水道も使い放題。少し、料金がかかっても取るべきだと思う。 (60歳以上 女性)
- ・お金を払ってもいいのでキャンプ場がもっとあればいい。 (60歳以上 女性)
- ・キャンプスペースをもっとはっきりとしてほしい。マナーの悪い人、やってはいけないところが有ることをきちんと明記して欲しい。せっかくだいい場所の道の駅なのでもったいない。 (40歳代 男性)
- ・近くのキャンプ場利用の際、必ず寄ります。いつかここでも、キャンプorBBQしてみたいです。外の焼き鳥美味しいです。 (40歳代 女性)
- ・キャンプ場は是非続けて欲しい。 (60歳以上 女性)
- ・今日、初めてです。最高です。 (30歳代 男性)

●その他

- ・クレジットカード利用 (60歳以上 男性)
- ・ドックラン (60歳以上 男性)
- ・特に言うことなく満足です。 (20歳未満 男性)
- ・とても気に入りました。次回来れるのを楽しみにしています。運営ありがとうございます。 (30歳代 男性)
- ・いつもお世話になります。ありがとう。 (50歳代 女性)
- ・台風で大変でしたが、再度、営業できて良かったです。大切な大好きなかつらです。いつまでもいつまでも続けてください。 (50歳代 女性)
- ・頑張ってください。 (40歳代 男性)
- ・建替後に商品値上げが無いようお願いします。道の駅ばとうは、全体的に値上げされてました。 (50歳代 男性)
- ・いいところですね。 (50歳代 男性)
- ・今後も去年みたいに那珂川の氾濫は必ずあると思うので、自然災害を考えて運営されては如何でしょうか？ (60歳以上 男性)

- ・RVパークの併設が実現したら大変嬉しい。(60歳以上 男性)
- ・店の人の対応が良い。(60歳以上 男性)
- ・道の駅かつらを利用して、常に思うことは、町のお店よりも全ての物の価格が高い。(60歳以上 男性)
- ・川の水がきれいです。色々な人への事をしているのでいいと思います。(20歳代 女性)
- ・川の水がとてもきれいです。様々な植物を売っており気に入りました。(20歳代 女性)
- ・移転の噂を聞きましたが、出来ればここで続けて欲しい。(40歳代 女性)
- ・すごく使いやすい店です。(40歳代 女性)
- ・水害後、ここまで元通りに近くなって本当に良かった。これからも頑張っ
て欲しい。(40歳代 女性)

- ・店内の異様なにおいが気になります。陳列の仕方がいまいち。店員さんの態度も
いまいちかな。(60歳以上 女性)
- ・野菜が無くなると暇を見て出掛けてきて、買い物を楽しんでいます。(60歳以上 女性)

- ・桂ジェラートの店員さんの「ありがとう」がとても気持ちよかったです。(60歳以上 女性)

- ・キャンプ場ありがとう。(60歳以上 男性)
- ・河岸はさわらない方が良い。自然のまま。(60歳以上 男性)
- ・頑張ってください。(60歳以上 男性)
- ・新しい施設期待します。(60歳以上 男性)
- ・頑張ってください。(60歳以上 男性)
- ・場所が良い。(60歳以上 男性)
- ・サービスが良いです。(60歳以上 男性)
- ・川の近くが良いです。(40歳代 女性)
- ・男の人がトイレしてた。最悪。怒りしか無い。せっかくのキャンプが…(40歳代 女性)

- ・お弁当を買うと温めてもらえると聞いたので(女性店員2人) 買ったら、男の店員
さんは嫌な顔をしていましたが温めてくれました。本当に有り難うございました。
とても美味しく頂きました。(50歳代 女性)
- ・新しくなるのを楽しみにしています。(60歳以上 女性)
- ・電子マネー使用できるといいですね。(60歳以上 女性)
- ・綺麗になるのは良いのですが、農産物や陳列物の多少によって魅力が無くなる
ところがあります。かつらの現在は、ちょっと清潔感が足りない気もしますがとても好
きです。(60歳以上 女性)
- ・楽しみで来ます。(60歳以上 女性)

3) 「道の駅かつら」整備コンセプト等について（意見交換）

- ① 方向性はまず選定することがスタートとなる。それについては、県の道路位置の特定が重要。これによって動線が変わる。県の情報を早急にこの委員会に提示して欲しい。今の道の駅、民間ホテル業者が入っている。栃木市はコテージ建てている。かつらは正月からキャンプする人もいる。キャンプの方も大事にできるといい。
- ② 道より入りやすい、出やすい場所が良い。桂の売りは新鮮な野菜が安く手に入る。アンケートに望むサービスに、給油とか営業時間の延長とかありますが、施設の運営するのは町なので、まずは採算が合うことが一番大事。規模もそれほど大きくなくてよい。訪れた人が安らぎ、安心を与えられる道の駅としてほしい。
- ③ 場所や地形のあることから、土地の選定をしてからコンセプトを決めたほうがよい。建物は大きくない方がよい。大宮も太田も建物が大きすぎるてらいがある。桂はそんなに大きくなくてよい。
- ④ 道から入りやすい。出やすいことを考えて欲しい。
- ⑤ 駐車場はあっても広場がない。イベントできるスペースがほしい。焼きたてのパンの香りがする、カレー、ラーメンなど食べられるテナントがあってもいい。
- ⑥ 特産物、河川でとれる魚、カニ、鮭、鮎などが桂の道の駅に行って食べられるという協力をしていきたい。
- ⑦ 周辺の新しい道の駅は、どこかスーパーマーケットのようだ。道の駅なら地元の農家さんの品物を売って農家に戻す。店の規模と店の体質を話し合っていきたい。
- ⑧ この地の河岸段丘の場所、道に向かって右は山、田畑、左は規模の小さい畑そして川。まず御前山地内に造るのか。それ以外にも造るのかをまず考えるべき。御前山地区だと土地は限られる。
- ⑨ 道の駅は休憩所ではなく、目的地になるような道の駅として造っていただきたい。
- ⑩ 台風19号で水没したことを考えれば、高台に建てるのが望ましく。また避難所的な役割も担っていただきたい。
- ⑪ ある程度予算を示してもらえると、土地買収や入る施設等、委員の頭の中により具体化すると思う。

- ⑫ 20何年も経つと道の駅の味が出てきて、新しい道の駅は近代的ではなくて木造の部分も入れてほしい。新しいトイレも造ったので、利用できるようあまり遠くないところが望ましい。
- ⑬ (株)桂ふるさと振興センターの取締役会で役員と話し合います。
- ⑭ 場所の選定については、造ったばかりのトイレの利用、台風19号で水没している、高台に造るとか、地域住民の避難場所として造るとか、その辺を加味してまず場所の選定をお願いしたい。
- ⑮ 現在の場所からあまり離れないでほしい。規模的には今より大きくなってもいいが、あまり大きくなってよい。
- ⑯ 新しい道の駅の売りがいまだわからないが、店を任されるにあたって、田舎のあったかい道の駅を目指して、皆さんであったかい感じの道の駅を造っていきたいと思います。
- ⑰ 休憩スペースを造った方がよい。水害を考えると高台に造った方がよい。トイレを造る場合、トイレは駐車場から遠くない場所に。障がい者、車椅子の方が利用できるトイレで、バリアフリーに。
- ⑱ 場所の選定後ですが、アクセスする町道の取付など協力して考えていきたい。
- ⑲ 直売所は農家の所得向上につながる。新しい道の駅を通じて地域の農業振興になるよう期待している。

4) 基本構想案について出た意見

- ① 地域から愛される道の駅として、免許返納者も来れるように道の駅に路線バスが乗り入れできるといい。道の駅のバス停がある。
観光バスも来るように、道の駅前で降りれて、トイレや買い物が済めば駐車場に戻る。
今はキャンプの他山登りもブーム。山登りの案内所がある。周囲の山があるので山登りの起点となる。後々は登山の指導員がいる等。
- ② 地域に愛される施設となるように。町が管理する施設であるから赤字が出れば町が負担するので、費用対効果をよく考えて作っていく。
- ③ シャワー室は要らないのでは。今まで通りのこじんまりとしたイメージ、今までの道の駅かつらのイメージが理想だ。
- ④ 基本構想案にはかけ離れたイメージが入っている。キャンプ場も併設するなら役場でも抜きんでたよくわかる方の意見を聞いた方が良い。必要な機能を考えるときに女性の意見は入っているのか。今どきの母親はミルク用のポットはみんな持っているし、子育て施設にも必要なものを検討するのに女性の意見をよく聞いた方が良い。
- ⑤ 入りやすい、出やすいことが一番。独特に魅力がある飲食や特産物。特色を活かす。那珂川でとれる季節の魚類、春はカニ、夏は鮎、秋は鮭、それを加工して飲食提供して特色を出す。江戸川区と連携して行っている鮭の孵化地業（卵からの放流）は命の教育もする。連携事業に協力したい。教育機能をもつ場合、研修室も必要。
- ⑥ 道の駅基本構想ならこうなるだろうが、基本的に特産品直売センターとして発足し、後に道の駅に指定されたので、まずは直売センターの移転として考えて、付随して道の駅も考えるように。
- ⑦ 基本構想案の写真を見るとどれも欲しくなってしまうが、2つ3つ選んで特徴のあるものに絞り込むべき。キャンプ場を有料化するということは管理側の責任が生まれる。使うものの責任だが、無料で使えるのもいい。
- ⑧ 今は道の駅に多様なことを求められるので基本構想もこうなるのかと思う。特産物を求め、終わればお茶を飲んでゆっくり風景を眺める。
- ⑨ いろいろな施設を作ればそれだけ管理が増えて大変になる。人手もかかり人材を集めると経費が掛かる。施設、機能は必要なものだけでいい。

- ⑩ 役員も谷津店長と色々コミュニケーションをとっているのですが、店長の意見をよく聞いてほしい。
- ⑪ 山側は眺めが良い。敷地も限られるので最低限必要なものでいい。筑西ではコンビニが撤退している。将来、農産物を納める方が増えるかどうか。加工品に力を入れるなど先を見ていくことが大切。
- ⑫ 今は消費者と出荷者が同じ出入口なので、それを分けてラベルが貼れる。農産物も鮮度がすぐ落ちるものもある。農産物が痛まない装置が必要。
- ⑬ 駐車場に歩行者専用通路があるのはいい。高台はいい。
- ⑭ ある程度先を見込んで、駐車場もバスの乗り入れに対応する。EV車への転換をみて施設整備する。
- ⑮ 地元農産物を販売しているという基本コンセプトを保つ。若い人が情報発信としても使う。水害もあったので防災拠点という公共的な役割のある道の駅。

5) 新道の駅かつらについての案（経験に基づく）

- * 路線バス乗り入れ、観光バス駐車場完備、バス停と観光バス降口所兼用
- * 道の駅出入口に信号（横断歩道も）を付け安全に出れる（渡れる）ように
- * 高台の場合、見晴らしの良い方にデッキなどを設ける
- * 御前山方面へのアクセスとして皇都川に吊り橋を
- * 建物は木造風で！今の雰囲気（田舎の雰囲気）を残したい
- * 情報館が別館で建てられるなら、かやぶき屋根の（黒沢トキ邸）建物を
（屋根の葺き替えもイベントにしてしまう）
- * 事務所、会議室は2階に設けては。会議室は一時避難所になるように
- * 山合いならアドベンチャースペース（コース）森林を活かして
- * 川側ならグランドゴルフ、BMXコース、ドッグラン、BBQ場、凧揚げ場など
- * 直売コーナー（お土産コーナー含む）の規模は1.5倍
- * お米、お茶、地酒、工芸品、水産物、食物加工品コーナーを設置
- * 観光地 御前山、御前山ダム、白山、赤沢富士、井殿山、津室山
仏国寺、竜谷院などをハイキングコースで案内
- * サイクルサポートステーション設置
- * 桂の木をシンボルツリーに

建物・設備対策として

- * 雪対策、氷点下対策
- * ツバメ、イノシシ対策
- * 虫対策（山・川が近いため異常発生が多）
- * 落ち葉対策（雨どいに落ち葉が詰まる他）
- * 雷対策（山側だと近くに落ちる頻度が高い）
- * 車止め（高齢者が多い）
- * 納品専用口（建物裏側）駐車場も

6) 役場女性職員より 新道の駅かつらに関するコンセプト

(1) 休憩施設

① 駐車場

- ・ 歩行者通路があるとわかりやすい。
- ・ 駐車場からお店、トイレまでの安全な通路を確保する。
- ・ 駐車場の広さは、コロナを考えると買ったものは車の中で窓を開けて食べるので、隣が気にならない感じだとよい。

② 休憩スペース

- ・ 屋外休憩スペースは○
- ・ テーブル等の間隔は広く、（コロナ対策、ベビーカー。車椅子のスペース確保）
- ・ 屋内休憩スペースに情報発信機能を一緒に持ってきてしまって十分
- ・ 観光コンセルジュはあまり使わないのでは。パンフレット（外国語版も）置くくらいでいい。
- ・ コインランドリーいらない。（複数回答有り）
- ・ コインシャワーはあってもいいけど、コロナを考えると私は使わない。
- ・ キャンプ以外でコインシャワーを利用する人は少ないと思う。（複数回答有り）
- ・ 携帯・スマホ充電できるところがあるとありがたい。

③ トイレ

- ・ オストメイト、乳幼児用トイレも重要だが多目的トイレでひとくくりにしては。
- ・ 子供が使えるトイレと洗面台があれば、個室の乳幼児トイレは要らない。
- ・ 女子トイレだけでなく、男女両方のトイレにおむつ交換台、子供を乗せておくベビーチェアがあると嬉しい。
- ・ ストッキング履き替え台があるトイレが1つくらいあると助かる。
- ・ いつも清潔できれいなトイレを希望。道の駅利用目的の一つであり、そのまま物産品を見に行くきっかけになる。でも貼り紙だらけになると見た目が悪くなるので、宣伝のためと広告を貼らないで欲しい。
- ・ 落ち着けるちょっとおしゃれなトイレがいいです。

- ・夜の利用もあるので防犯対策も徹底して欲しい。

④サイクルステーション

- ・Eバイクどれくらいの人が使っているかわからない。充電スポットは駐車場の電気自動車と一緒にできないのか。
- ・サイクルステーションまでせず、空気入れを貸し出せるようにしておけば大丈夫では。山の中をサイクリングしようとする人は何もなしでは来ない気がする。
- ・サイクリングロードがあるわけではないのでサイクルステーションは不要と思う。

(2) 情報発信機能

①観光情報等、地域の情報

- ・写真のような情報発信施設、観光コンセルジュ、必要なのか何だかわからない。

②災害時の情報

- ・道の駅スポットは○。Wi-Fiはいいと思う。

③子育て応援施設

- ・キッズコーナーで子供が遊びたいかという、むしろソフトクリームとかが気になっていた。町民の普段使いとしてのキッズスペースなら良さそう。
- ・調乳用温水器は、水筒で代用。おむつ交換台キッズコーナー併設までしなくてもよい。写真のキッズコーナーまで要らない。

(3) 地域連携機能

①農水産物販売機能

- ・一時かつらじゃあとのカップの在庫が非常に少なくて驚いたことがあったので、きちんと供給できるようにするといい。外のジェラート屋さんが閉まってからでも中で買えるとうれしい。
- ・地域の特産品は広く出回らないものも多いので、試食品があると手に取りやすい。
- ・季節ものが多いので、同種類の出荷物になりやすい。同じ野菜でも品種の違いやおすすめの食べ方をアピールする。

- ・農家さんへ（お客さんが作って欲しい、使ってみたいもの）要望のパイプ役
- ・城里町の特産品を集めたコーナーの充実。古内茶のカフェ。ななかいの里コシカリのおむすび屋さん。

2) 飲食施設

- ・うどん、そば以外の料理も食べられるようになると嬉しい。
- ・コロナで店中では食べたくない人も多いと思うので、持ち帰りしやすい（車内でたべやすい）ピザやパンはとてもよい。
- ・ピザは、ふれあいの里のピザづくりとリンクしたメニューにすると広告効果もある。パンは旅行者的に「ここならではのパン」を楽しみにすると思う。レッドポワロー、ジビエとかを使ったパン。カレーパンフェチ、アンパンフェチはある程度いる。城里野菜を使ったカレーパン食べてみたい。〇〇アンパンも買ってしまおう。
- ・若い人たちのお茶する場の提供（甘いもの、和洋が充実）
- ・中年層はパスタ、ワンプレート、欲張りなものみんな大好き。
- ・香りがいいもの（焼きたてパン）で人を集める。土日祝は特別な日としてパンを販売するなど。朝の焼きたてパン。城里らしいパンも。うぐいすパン、ホロルパンetc

3) 多目的広場

- ・広場の活用方法が具体的にないなら不要に思う。（定期的にイベントがあるとか）
- ・ドックランも犬の毛アレルギーのある人に毛が飛んでいけないように、位置、風向きを考える必要がある。
- ・ドックランすぐ汚くなるのでこまめな整備が必要。荒れたところは利用されない。
- ・ドックランがいるなら犬をつなぐポールも必要。

(4) 防災機能

①防災施設

- ・避難所になるなら防災施設があってもよい。（避難所にならないなら要らない）

(5) その他

①ユニバーサルデザインに基づく計画

- ・ 一般用医薬品の販売は不要では。

②キャンプなどのレジャー施設

- ・ ふれあいの里との絡みは大丈夫か。
- ・ 有料キャンプ場として整備して、ルールを守って利用してもらおう。
- ・ 防犯対策がされていれば女性も安心してキャンプできると思う。

城里町特産品直売センターかつら（道の駅）移転整備検討委員会

本基本構想を策定にあたり、以下の日程で検討・意見をいただきながら策定を進めていきました。

(1) 検討委員会開催日程

日 程	検 討 内 容	備 考
令和2年 10月26日（月）	第1回 検討委員会 議 事 （1）道の駅の移転にかかるこれまでの経緯について （2）「道の駅」について （3）基本構想・基本計画策定業務について （4）道の駅かつら周辺の関係法令に基づく区域について （5）「道の駅かつら」ご利用アンケート調査の実施について （6）「道の駅かつら」整備コンセプト等について（意見交換） （7）その他	基本構想策定検討
11月20日（金）	第2回 検討委員会 議 事 （1）道の駅整備候補地選定について （2）アンケート調査の途中経過について （3）整備コンセプトについて	基本構想策定検討
12月25日（金）	第3回 検討委員会 議 事 （1）道の駅移転基本構想 （2）道の駅施設規模の算定について （3）その他	基本構想策定検討
令和3年 6月23日（水）	第4回 検討委員会 議 事 （1）道の駅移転基本構想について （2）道の駅移転基本計画について （3）その他	基本構想・基本 計画策定検討

(2) 委員名簿

城里町特産品直売センターかつら（道の駅）移転整備検討委員会委員名簿

委員（順不同，敬称略）

No.	役職名	職名	氏名	備考
1	委員長	茨城大学人文社会科学部准教授	小原 規 宏	
2	副委員長	城里町議会議長	関 誠 一 郎	
3	委員	城里町議会総務民生常任委員長	菌 部 一	
4	委員	城里町議会教育産業常任委員長	三 村 孝 信	
5	委員	(株)桂ふるさと振興センター取締役	仲 山 和 子	
6	委員	(株)桂ふるさと振興センター取締役	中井川 孝次	
7	委員	(株)桂ふるさと振興センター取締役	平 塚 尚 二	
8	委員	生産出荷者運営委員会代表	小 林 勝 夫	
9	委員	特産品直売センターかつら店長	谷 津 安 男	
10	委員	水戸農業協同組合桂地区常任理事	小 幡 利 克	
11	委員	城里町商工会会長	廣 木 和 久	
12	委員	城里町商工会女性部長	南 條 惠 子	
13	委員	那珂川漁業協同組合代表理事組合長	添 田 規 矩	
14	委員	城里町区長会会長	小 山 卓 臣 櫻 井 昭 次	～R3. 3. 31 R3. 6. 23～
15	委員	御前山区長	西 田 修 平	
16	委員	城里町身体障害者福祉協会会長	武 井 律 子 平 賀 泰 章	～R3. 3. 31 R3. 6. 23～
17	委員	副町長	仲 田 不 二 雄	
18	委員	総務課長	鯉 淵 和 己 山 口 成 治	～R3. 3. 31 R3. 6. 23～
19	委員	都市建設課長	大 津 好 男	
20	委員	農業政策課長	山 口 成 治 増 井 栄 一	～R3. 3. 31 R3. 6. 23～

(国) オブザーバー

No.	職名	氏名	備考
1	国土交通省 関東地方整備局 常陸河川国道事務所 計画課 建設専門官	氣 田 優 治	
2	国土交通省 関東地方整備局 常陸河川国道事務所 計画課課長	平 田 政 憲	

(県) オブザーバー

No.	職名	氏名	備考
1	茨城県政策企画部 地域振興課長	松 田 慧 吾	
2	茨城県営業戦略部 観光物産課長	海老原 二良 久保 三千雄	～R3. 3. 31 R3. 4. 1～
3	茨城県営業戦略部 販売流通課長	入 野 達 之	
4	茨城県土木部 道路維持課長	大 石 直 人 大 森 満	～R3. 3. 31 R3. 4. 1～
5	茨城県水戸土木事務所長	皆 川 和 彦 羽 成 英 臣	～R3. 3. 31 R3. 4. 1～

(3) 設置要綱

城里町特産品直売センターかつら（道の駅）移転整備検討委員会設置要綱

（設置）

第1条 特産品直売センターかつら（道の駅）を移転整備するため特産品直売センターかつら（道の駅）移転整備検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（所掌事項）

第2条 委員会は、次に掲げる事項について、調査、検討及び協議を行う。

- (1) 道の駅の移転基本構想・基本計画の策定に関すること。
- (2) その他道の駅の移転整備に必要と認めること。

（組織）

第3条 委員会は、委員20人以内をもって組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる者のうちから、町長が委嘱又は任命する。

- (1) 特産品直売センターかつら指定管理者、その他関係団体の役職員
- (2) 学識経験者
- (3) その他町長が必要と認める者

（任期）

第4条 委員の任期は、町長が委嘱した日から、第2条に規定する所掌事項が完了する日までとする。

（委員長等）

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

2 委員長及び副委員長は、委員の互選によって定める。

3 委員長は、会務を総理する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長が欠けたとき又は事故があるときは、その職務を代理する。

（会議）

第6条 委員会の会議は、委員長が招集する。

2 委員長は、会議の議長となり議事を進行する。

3 委員会は、必要に応じて会議に委員以外の者の出席を求め、意見又は説明を聴くことができる。

（オブザーバー）

第7条 委員会は、第2条に規定する所掌事項を効率的かつ円滑に行うため必要と認めるときは、オブザーバーを置くことができる。

2 オブザーバーは、その専門的知識及び経験により、委員会に対し助言を行うことができる。

（報償）

第8条 町長は、委員及びオブザーバーに予算の定めるところにより報償費を支給することができる。

（庶務）

第9条 委員会の庶務は、まちづくり戦略課において処理する。

(その他)

第10条 この告示に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が会議に諮って定める。

附 則

この告示は、令和2年4月1日から施行する。

城里町「道の駅かつら」移転基本構想
令和3年6月発行
編集・発行 城里町まちづくり戦略課
〒311-4391 茨城県東茨城郡城里町城里町石塚 1428-25
Tel : 029-288-3111
E-mail : machi@town.shirosato.lg.jp